

新撰地誌

岡村増太郎編纂  
訂正  
一

尾  
子  
大  
師  
号





甲 2  
卷 1

東京  
學校

岡村增太郎編纂

# 新撰地誌

卷之二

甲  
三指六号

文學社

日本  
文學社



緒言

一本書ハ世ノ子女ノ學校ニアルト家庭ニアルトヲ問ハス初  
 テ地理學ヲ修メント欲スルモノ、爲ニ左ノ諸項ニ存スル  
 主義ニ因リテ編述セルモノナリ

一何ノ學科ヲ論セス之ヲ教授スルニハ總合分解ノ兩法ヲ併  
 用スヘキモノニシテ又學徒ノ年齢ノ多少智識ノ高低ニ從  
 ヒテ兩法併用ノ間ニ比例ノ存スルモノナリ即初學ニ在リ  
 テハ總合法ニ比シテ分解法ヲ多ク用ヰルヲ常トス地理學  
 ニ於テハ特ニ然リ

一凡ソ教科書ハ其學科ノ順序及程度ヲ示スニ過キサルモノ  
 ナレハ單ニ教科書ニ據ルルヲ務メスシテ機ニ臨ミ變ニ應  
 シ取捨増減以テ其教授ヲ全ウセンヲ要ス特ニ本書總論  
 ニ載スル所ノ如キハ土地ニ由リテ趣ヲ異ニシ授クヘキ事

項ニ高卑遠近ノ差アリテ難易先後ノ別モ從テ生スルモノ  
 ナレハ最意ヲ用ヰサルヘカラス

一地理ノ觀念ヲ明瞭確實ニ與ヘント欲セハ教授ノ順序モ自  
 然ニ合スルヲ要ス故ニ可及的天爲地理ヲ先ニシテ人爲地  
 理ヲ後ニセサルヘカ務ス然レモ時ニ當テ學徒ノ心意ニ入  
 リ易キ事情存スルトキハ必シモ之ニ由ルヲ須ヰサルナリ

一小學教課ニハ趣味存セサルヘカラス故ニ名所古跡等又歴  
 史ニ關スル事項ハ隨所ニ之ヲ散記スルヲ可トス

一地圖ハ地理學教授上必要ノモノナレハ鮮明確實ナルヲ要  
 ス然レトモ之ヲ用ヰルノ際地圖ノ教授ニ流レサランヲ  
 注意スヘシ

明治十九年五月



惣目  
卷之一

第一篇總論

第二篇日本誌

卷之二

第二篇日本誌續

卷之三

第三篇萬國誌

卷之四

第三篇萬國誌續 大尾

第一篇總論

第一章 位置

第一課 解義



上ノ圖ヲ見ヨ、此ハ小

兒等ノ誓古ヲナス所

ナリ、右ノ手ニ鞭ヲ持

テ立ツ人ハ、教師ニ

シテ其前ニ机アリ、机

ノ中央ニハ、一個ノ球

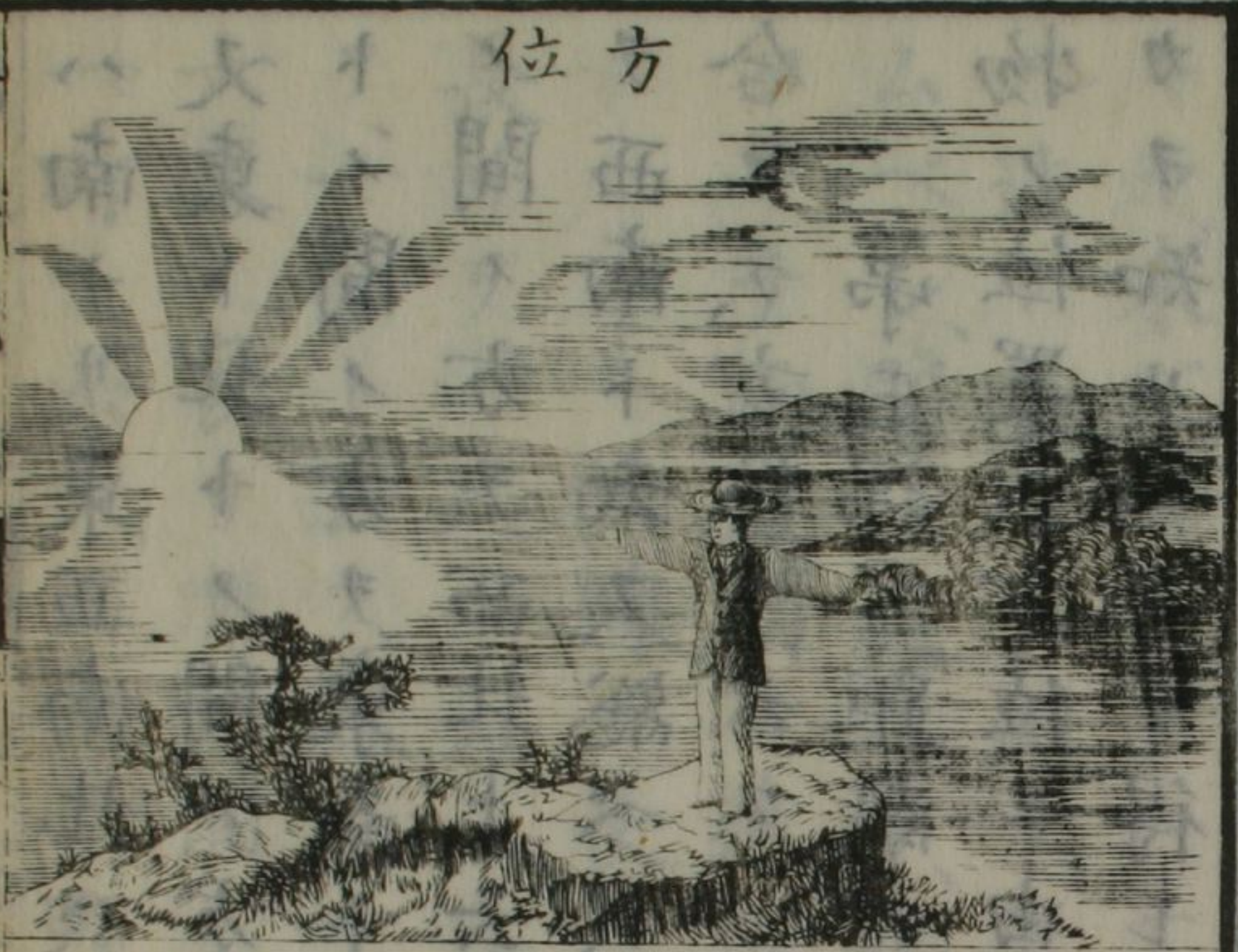


ヲ載セタリ、二人ノ男兒ハ教師ニ向ヒ、二人ノ女兒ハ教師ノ左ニアリテ、球ノ話ヲ聞キ居レリ、

又教師ノ後ノ壁ニ掛ケタル圖アリ、其圖ト教師トノ間ニ椅子アリ、此ノ如ク物ノアル場處ヲ、其物ノ位置ト云フ、

第二課 方位

物ノ位置ヲ話スニハ、前後左右等ノ語ヲ用井レドモ、人其處ニアラザルトキハ、東或ハ南



等ノ語ヲ用井ルナリ、東トハ日ノ出ヅル方ヲ云ヒ、西トハ日ノ入ル方ヲ云フ、故ニ、圖ニ示シタル小兒ノ如ク、右ノ手ニテ東ヲ指シ、左ノ手ニテ西ヲ指シ、トキハ、此小兒ノ前ノ方ハ北ニシテ、後ノ方



ハ南ナリ、東西南北ハ、之ヲ四方ト云フ、  
又東ト北トノ間ノ方ヲ東北ト云ヒ、東ト南  
トノ間ノ方ヲ東南ト云フ、而シテ西ト北ト  
ノ間ノ方ヲ西北ト云ヒ、西ト南トノ間ノ方  
ヲ西南ト云フ、總ベテ、此等ノ方ト、四方トヲ  
合セテ、方位ト云フ、

第三課 距離

物ノ位置ハ、方位ニ由リテ、何レノ方ニア  
ルカヲ知ルコトヲ得レドモ、其遠キヤ、或ハ近

キヤ、未ダ知ラザルナリ、故ニ我ヨリ物ニ至  
ル迄ノ長サヲ測リ、之ニ由リテ其遠近ヲ定  
ムベシ、則一處ヨリ、他處ニ至ル間ノ長サニ  
ヨリテ兩處間ノ遠近ヲ知ルナリ、  
此線ノ長サヲ、一寸ト云ヒ、十寸ノ  
長サヲ、一尺ト云フ、又一寸ノ十分一ノ長サ  
ヲ、一分ト云フ、故ニ十分ハ一寸ナリ、  
六尺ノ長サヲ、一間ト云ヒ、六十間ノ長サヲ、  
一町ト云ヒ、三十六町ノ長サヲ、一里ト云フ、



以上ノ長サノ名アルモノハ、距離ナリ、

### 第二章 地圖

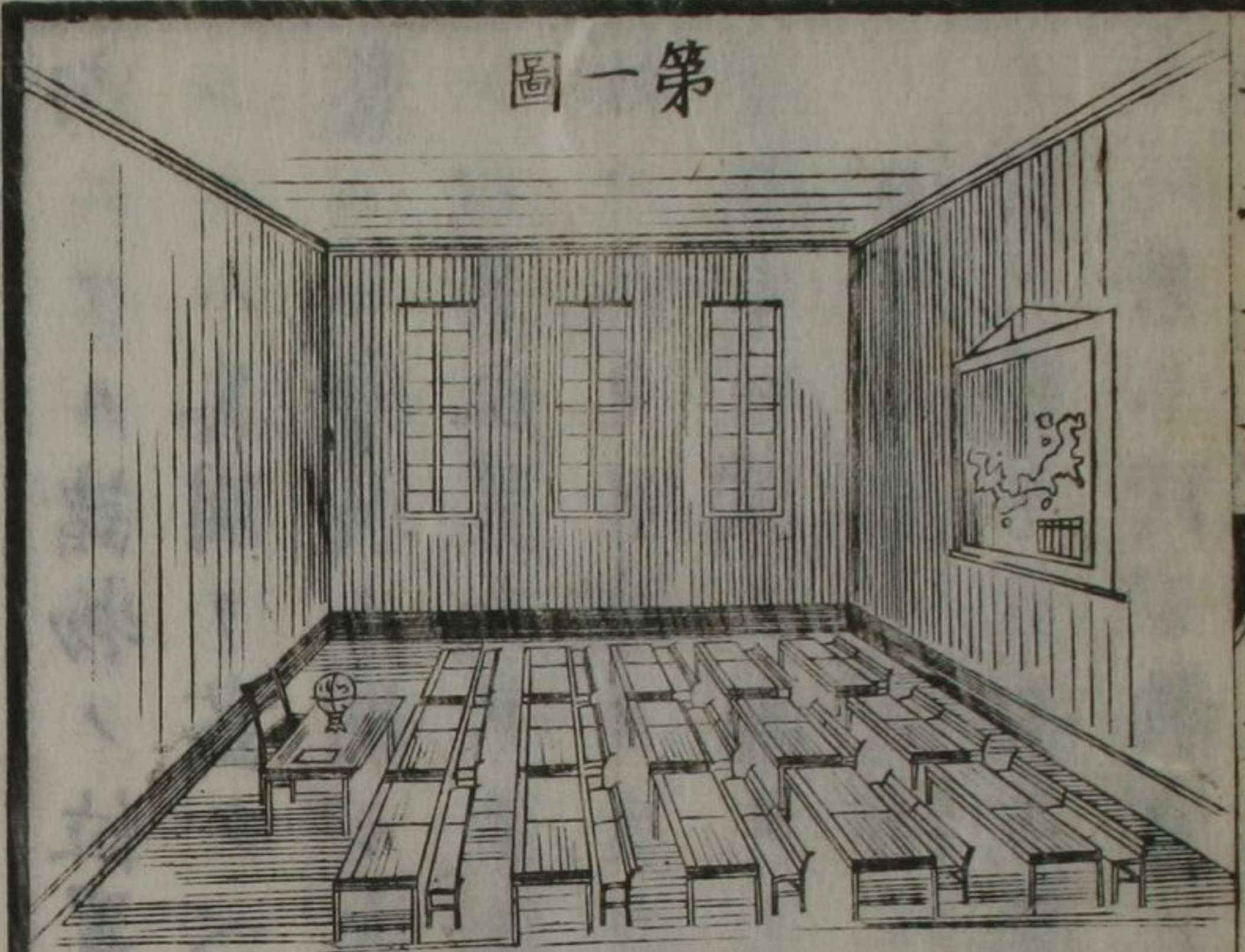
#### 第一課 教室

何物ヲ學ブニモ、其物ヲ畫キタル圖アルト  
 キハ、能ク解スルモノニシテ、未ダ見ザル處  
 ノ鳥獸草木モ、其圖ニ由リテ、之ヲ學ブトキ  
 ハ、己ニ知レル物ノ内ニテ、何ニ似タルヤヲ  
 知リテ、之ヲ解スルコトモ易キモノナリ、故  
 ニ、汝等日々誓古スル處ハ、教室ノ廣サ、又室

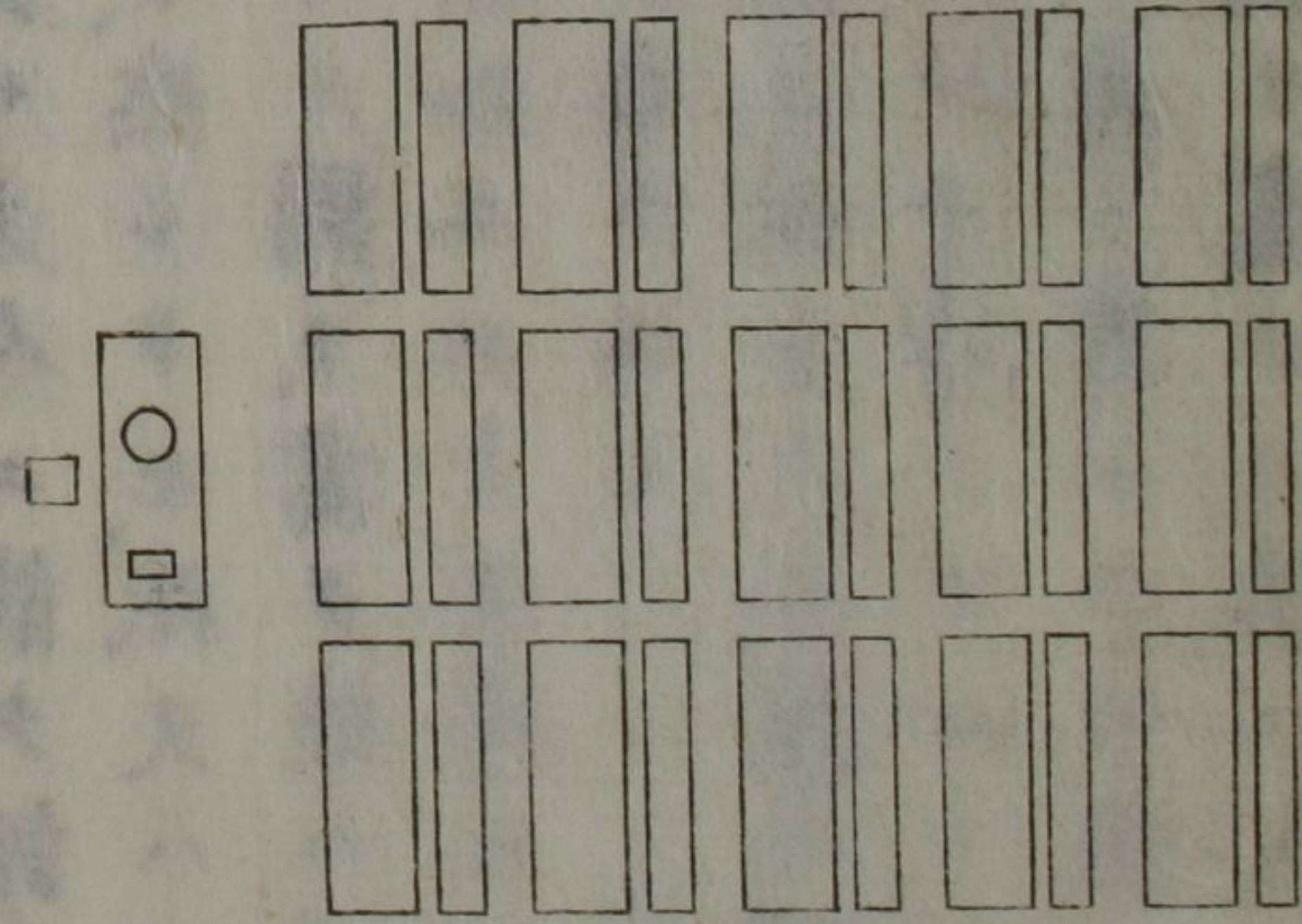
内ニアル諸物ノ位置大サヲ、人ニ能ク話サ  
 ンニハ、其圖ヲ畫クベシ、然レドモ、紙又ハ石  
 盤ニハ、實物ト同ジ大サノ圖ヲ畫ク能ハザ  
 レバ、其位置大サヲ、測リ知ルコトヲ得ルガ  
 如クニ、之ヲ縮メテ、小ク畫クベシ、  
 今教室ノ圖ヲ畫クニ、左ニ示シタル、第一圖  
 ノ如クニセバ、室内ニ机椅子等ノアルハ、日  
 々目ヲ開キテ、之ヲ見ル處ト異ナラズ、然レ  
 ドモ、若シ同ジ教室ノ圖ヲ畫クニ、第二圖ノ



第一圖



第二圖



如クセバ、前圖ト違ヒ、又日々見ル處ト異ナ  
リテ、只室内ノ床上ニ、諸物ノ位置、及大小ヲ  
知ルノミ、此ノ如ク、實物ノ位置、大小等ヲ、測  
リ知ルコトヲ得ルノ圖ヲ、地圖ト云フ、是故  
ニ、地圖ハ上ヨリ見下ス人ニ見ユル如ク、畫  
キタルモノニシテ、通常ノ圖ト異ナルナリ、  
床上ニ在リテ、机椅子等ヲ見テ、之ヲ紙又ハ  
石盤ニ畫クトキハ、圖トナリ、高ク登リテ、上  
ヨリ之ヲ見下シ、其見ユル處ヲ畫クトキハ、

新撰地誌 卷之一 五

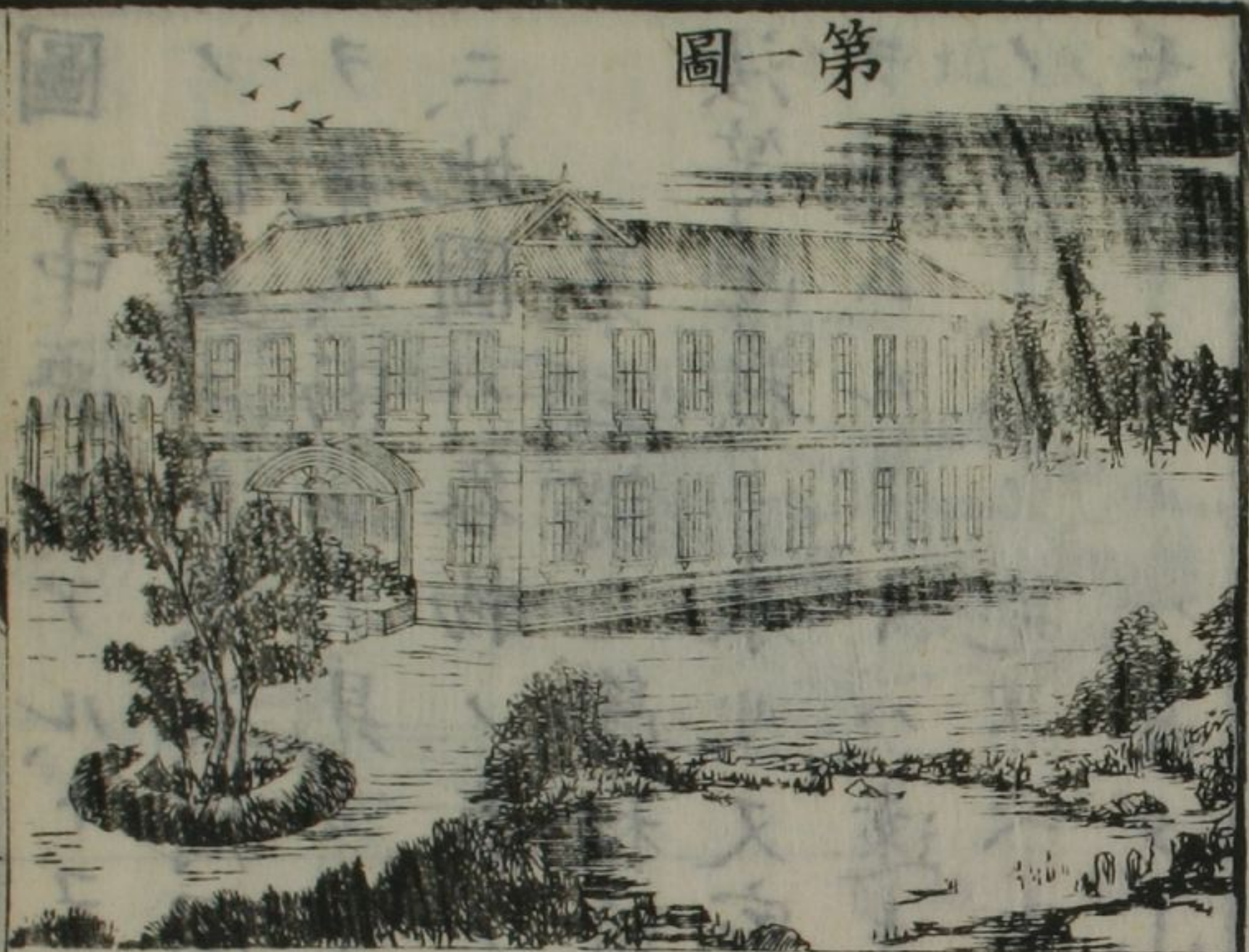


地圖トナル

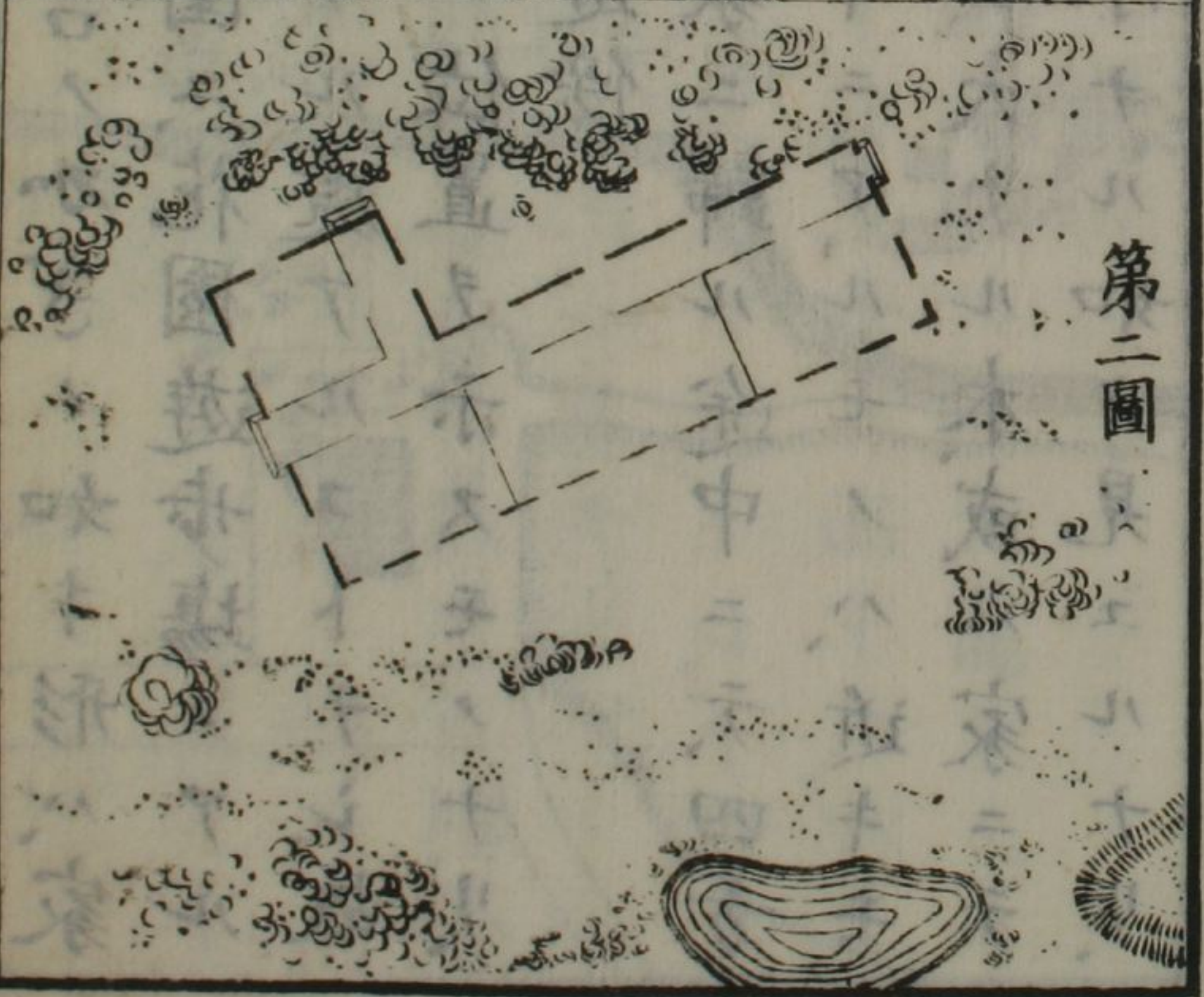
第二課 學校境内

學校ノ家屋并ニ庭園或ハ遊歩場ノ圖ヲ畫クトキニ、家若シ庭園ノ中央ニアリトセバ、其位置ハ左ニ示シタル第一圖ノ如クナルベシ、而シテ庭園ノ一部ハ家ノ後ニ在リテ、見ル能ハザル處アリ、又或處ハ家ヨリ遠クシテ、其實否ラザルモ、小ク見ユルナリ、然レドモ、其地圖ヲ畫クトキハ、第二圖ノ如クニシテ

第一圖



第二圖



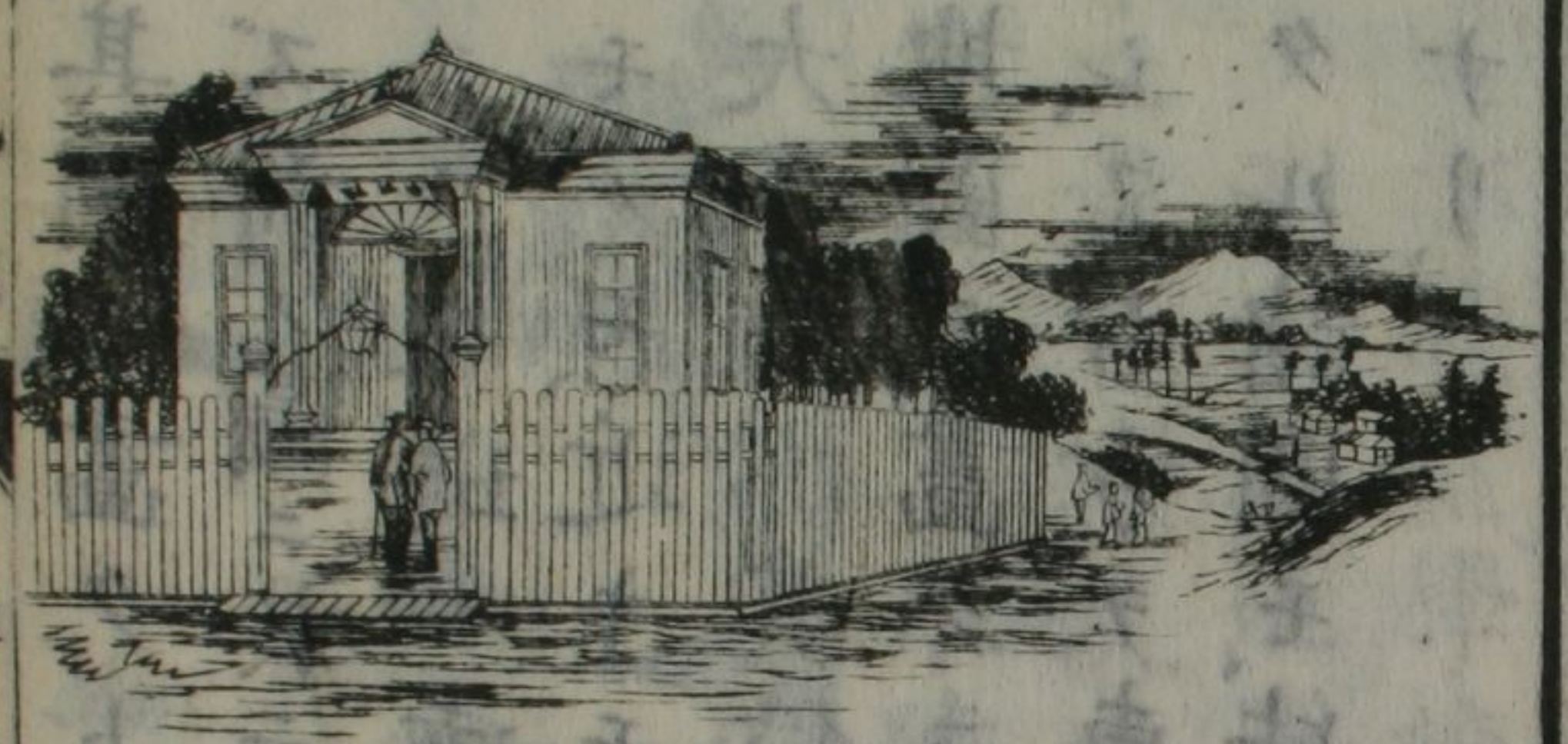


圖ノ中央ニアルトコロノかぎノ如キ形ハ家ノ位置ニシテ其周圍ニ花園遊歩場ノアルヲ見ル而シテ見エザル處アルコトナシ故ニ地圖ハ各物ノ真ノ位置ヲ示スモノナリ

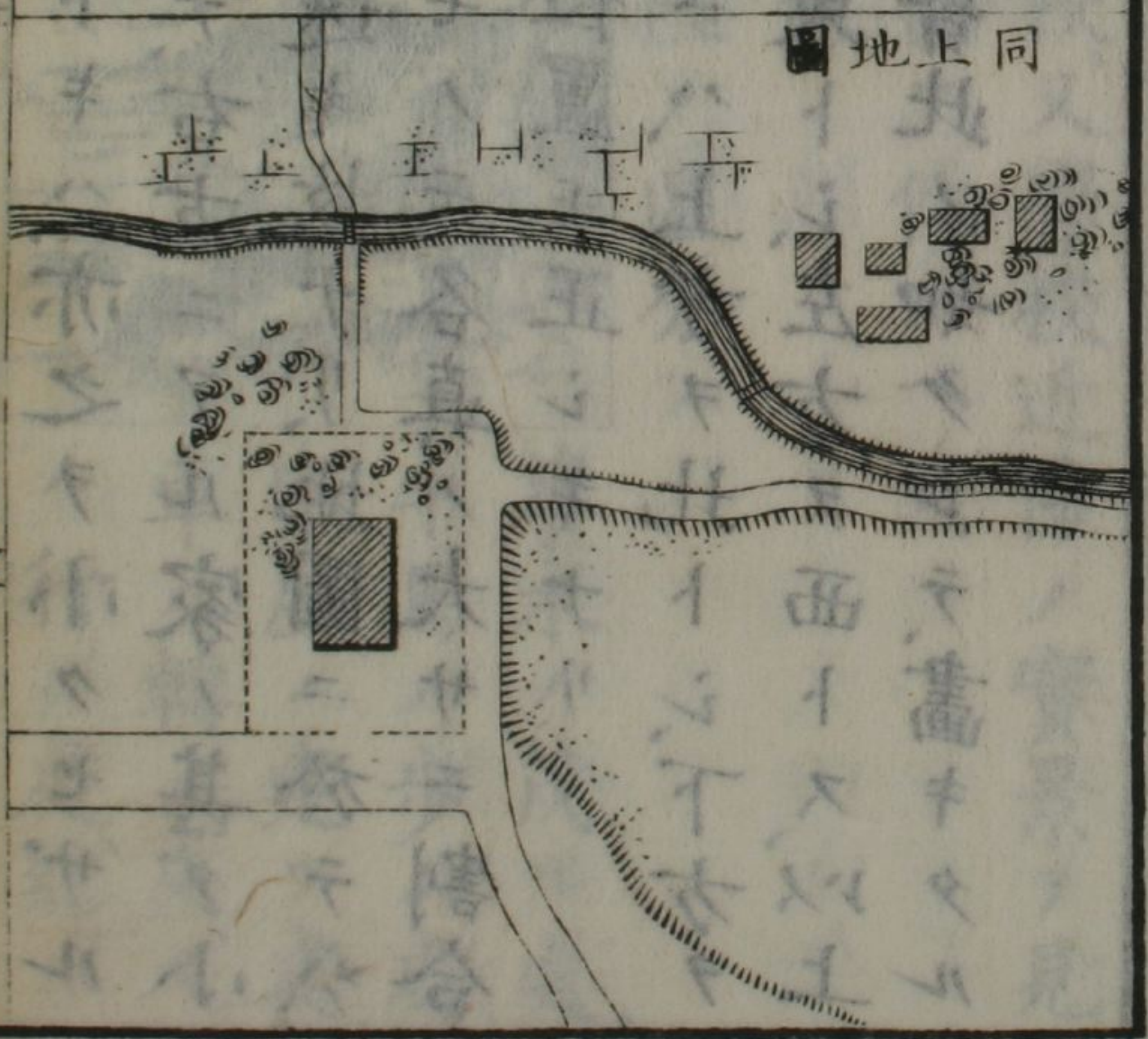
第三課 學校近傍

汝等學校ニ来リ又家ニ歸ル途中ニテ四方ヲ眺ムルトキハ遠キニアルモノハ近キモノヨリ小ク見ユベシ大ナル木或ハ家ニテモ遠キモノハ甚ダ小ナル如ク見ユルナリ

學校近傍之圖



同地上地圖



新撰地誌

七



故ニ其圖ヲ畫クトキハ、亦之ヲ小クセザル  
 可ラズ、前ノ圖ニ於テ、右方ニアル家ノ甚ダ小  
 ク見ユルハ、遙ニ遠キ故ナリ、地圖ニ於テハ、  
 遠キモノモ、近キモノモ、各真ノ大サニ割合  
 シテ大キク、亦其位置モ正シキナリ、  
 凡ソ地圖ヲ畫クニハ、上方ヲ北トシ、下方ヲ  
 南トシ、又右方ヲ東トシ、左方ヲ西トス、以上  
 示レタル諸圖モ、皆此ノ如クシテ、畫キタル  
 モノナリ、

汝等モ亦教室、學校、又學校近傍ノ實景ヲ見  
 テ、之ヲ測リ、其地圖ヲ作ルベシ、

第三章 陸及水

第一課 水陸ノ區分



草木ノ茂ル處、  
 牛馬ノ歩ム處、  
 家屋ノ建ツ處、  
 車ノ轉ル處、人  
 ノ行ク處、總ベ



テ之ヲ陸ト云フ、船ノ浮ブ處、波ノ起ル處、鳥ノ浮ブ處、総ベテ之ヲ水ト云フ、

第二課海岸ノ陸



水ニ浴ヒタル陸ヲ海岸ト云ヒ、或ハ之ヲ海濱ト云フ、陸ノ小クシテ、四方全ク水ヲ繞シタルモノヲ、島ト云ヒ、其殆ド水



濱岸岬峽島嶼ノ區別

ヲ、地峽ト云フ、

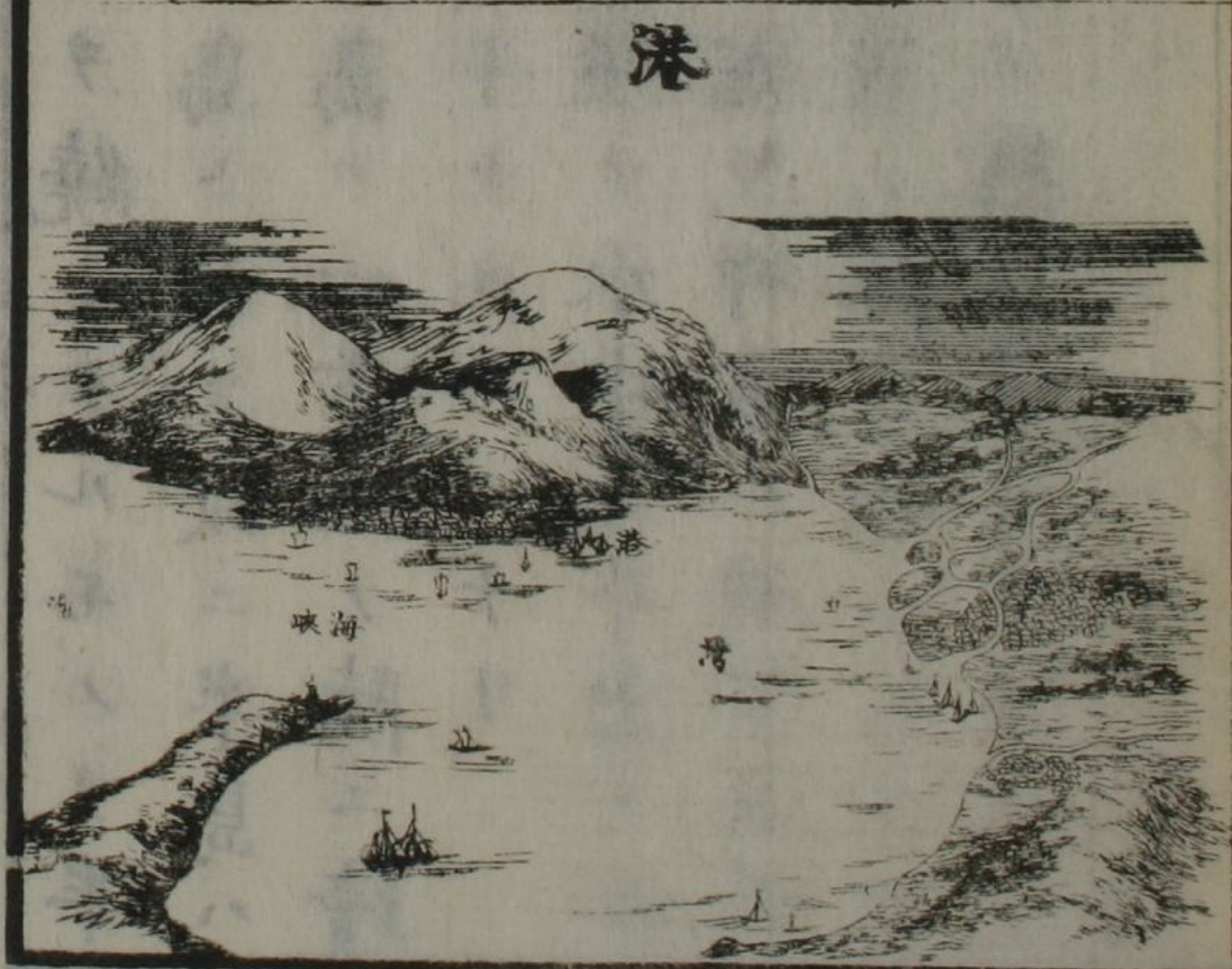
ヲ繞シタルモノヲ、半島ト云フ、故ニ半島ハ、島ノ一方他ノ陸ニ續キタルモノナリ、陸ノ水中ニ斗出スル端ヲ、岬或ハ崎ト云フ、陸ノ細キ部ニシテ、二ノ陸ヲ連ネタルモノ



第三課 海ノ水

陸地諸水ノ注入ヲ受  
 クル水ノ一體ヲ海ト  
 云フ、  
 陸ノ間ニ水ノ曲リテ  
 入リタル處ヲ灣又ハ  
 入江ト云ヒ、灣ノ深ク  
 且小クシテ、船舶ニ便  
 ナル處ヲ港ト云フ、

港



水ノ狭キ部ニシテ、二ノ海水ヲ連ネタルモノ  
 ヲ海峡ト云フ、  
 第四章 内地ノ水

第一課 泉

水ノ地中ヨリ湧キ出  
 ヅルモノヲ泉ト云フ、  
 泉ヨリ出ヅル小キ流  
 ヲ小川ト云ヒ、小川集  
 レバ大ナル流トナル

泉



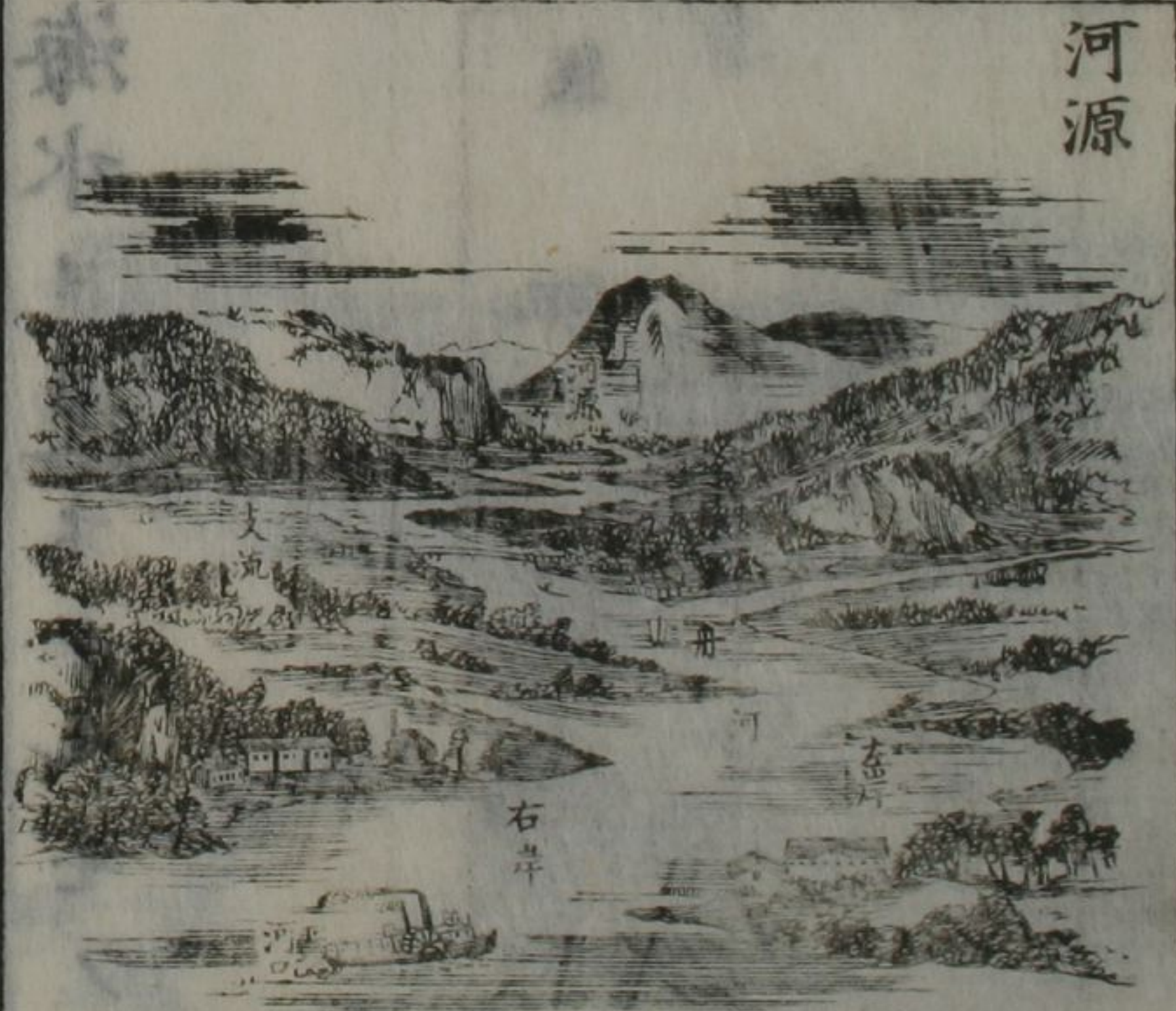


ナリ、大々山脈十々山

第二課 河

水ノ地上ヲ長ク流ル  
ルモノ又河ト云フ  
河水ノ發スル處ヲ河  
源ト云フ故ニ泉ハ河  
源トナルモノ多ク又  
河水ノ他ノ水ニ注ギ  
入ル處又河口ト云フ

河源



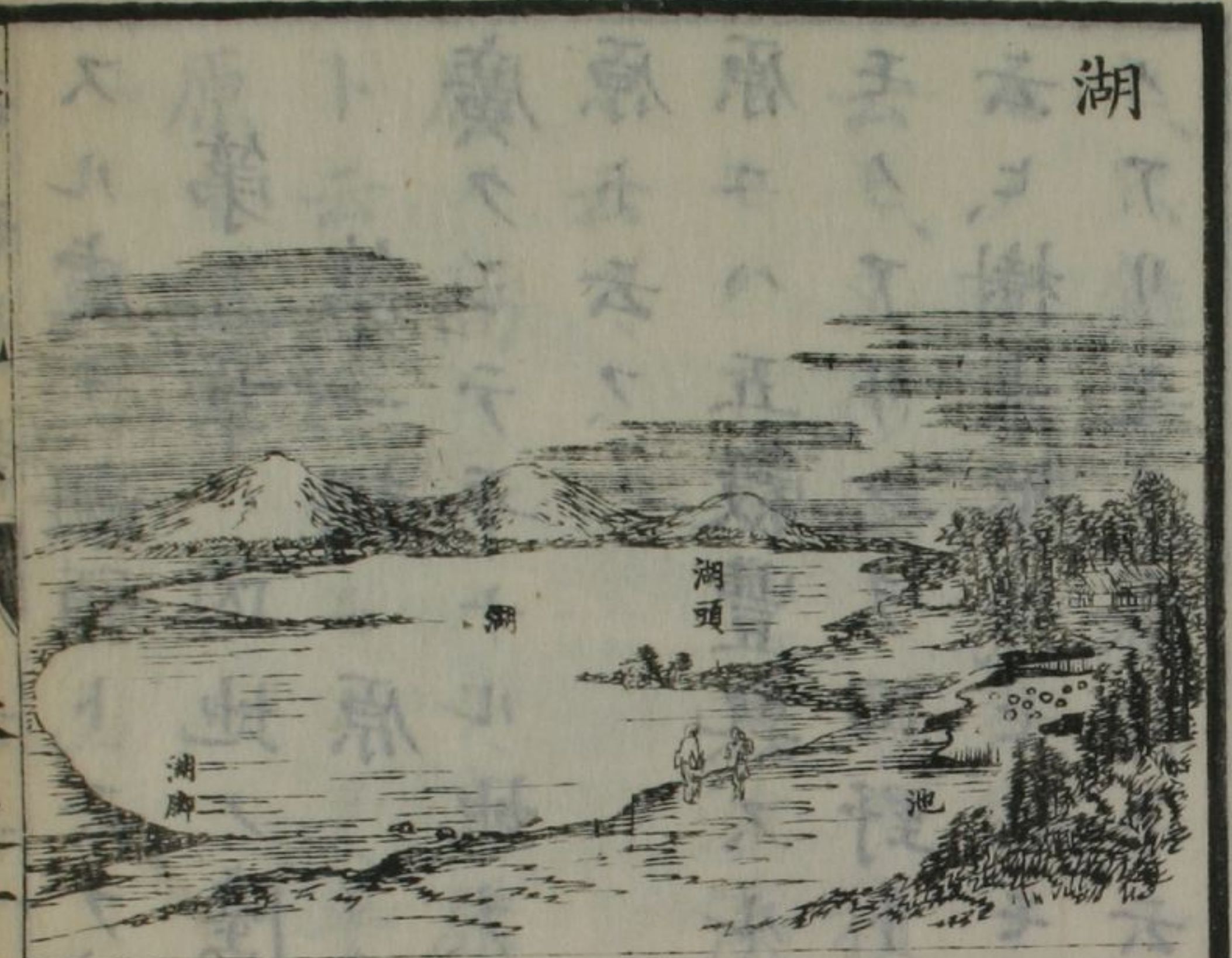
河水ヲ其上ヲ流ル  
地ヲ河底下ト云フ河水  
ノ接スル兩側ノ地ハ  
則河岸ニシテ下流ニ  
向ヒテ立ツ人ハ右ニ  
アル河岸ヲ右岸ト云  
ヒ左ニアルモノ又左  
岸ト云フナリ、云々  
河底ノ急ニ斜ナル處

瀑





ヲ流レ下ル水ヲ急流ト云ヒ、高キ處ヨリ落  
ツル水ヲ瀑ト云フ  
河ニハ注ギ入ル處ノ小流アリ之ヲ支流ト  
云ス人ノ堀リタル河ノ小ナルモノハ之ヲ  
溝ト云フ  
急流ナラザル河又溝ハ舟或ハ筏ヲ泛ベテ  
人或ハ荷物ヲ運ブニ便ナルモノナリ、  
第三課 湖  
陸ノ凹ミタル處ニ集レル水ノ小ナルモノ



湖  
ヲ池ト云ヒ其大ナル  
モノヲ湖ト云フ  
湖ニ注ギ入ル水ハ數  
流アレドモ流レ出ツ  
ルモノハ通常一個ニ  
シテ或ハ全ク流出ス  
ル口ナキモノアリ  
湖水ノ流出スル所ヲ  
湖脚ト云ヒ湖脚ニ對



スル處ヲ湖頭ト云フ

第五章 内地ノ陸

第一課 原

廣クシテ平ナル地ヲ

原ト云フ

原ニハ五穀豊熟スル

モノアリ之ヲ田野ト

云ヒ樹木繁茂セルモ

ノアリ之ヲ森林ト云

田野



ヒ、只雜草ノ發生セル

モノアリ、之ヲ荒原ト

云ヒ、又砂礫ノ布キ積

ルモノアリ、之ヲ沙漠

ト云フ

原ノ高キモノヲ高原

ト云ヒ、低キモノヲ平

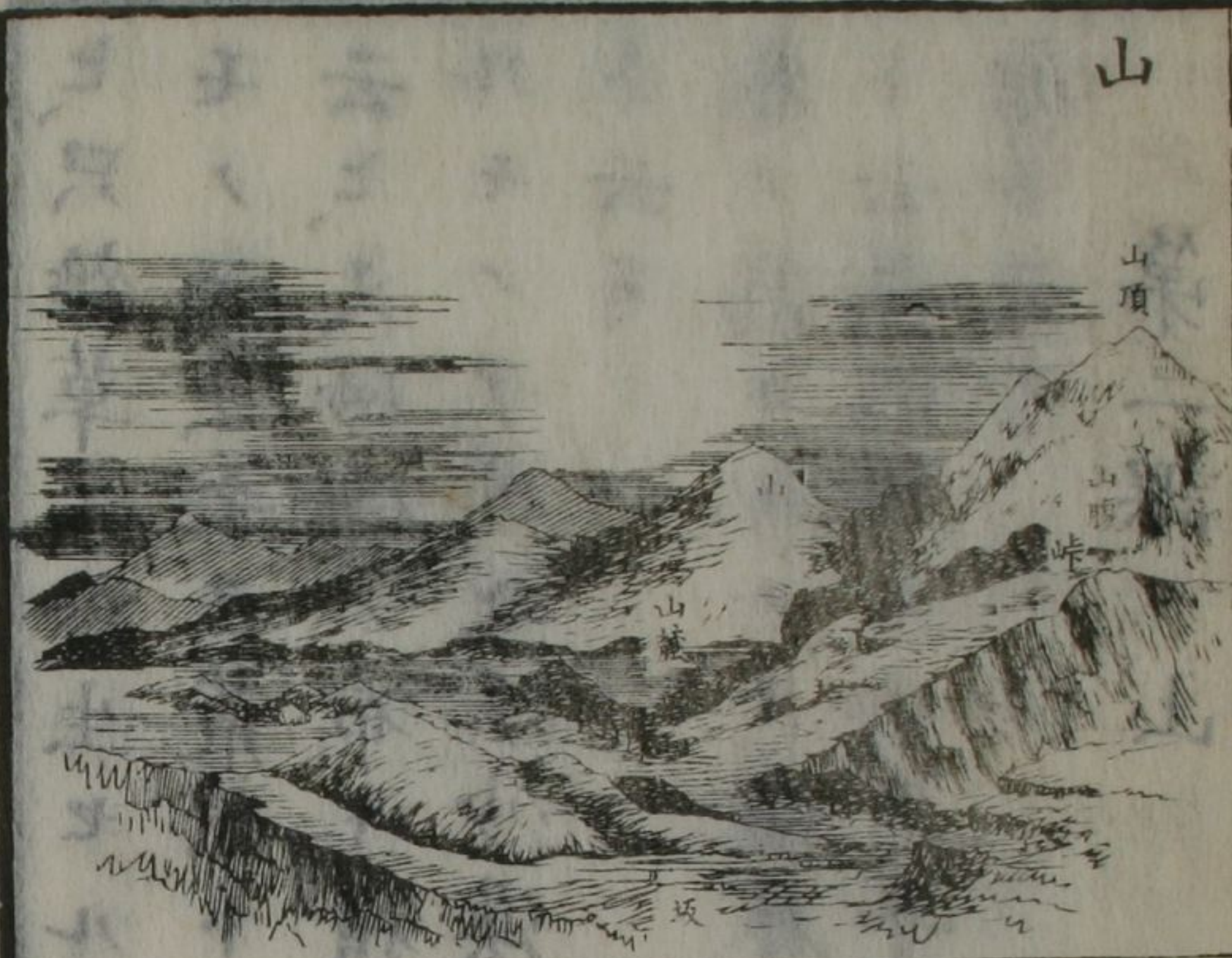
原ト云フ

山 第二課



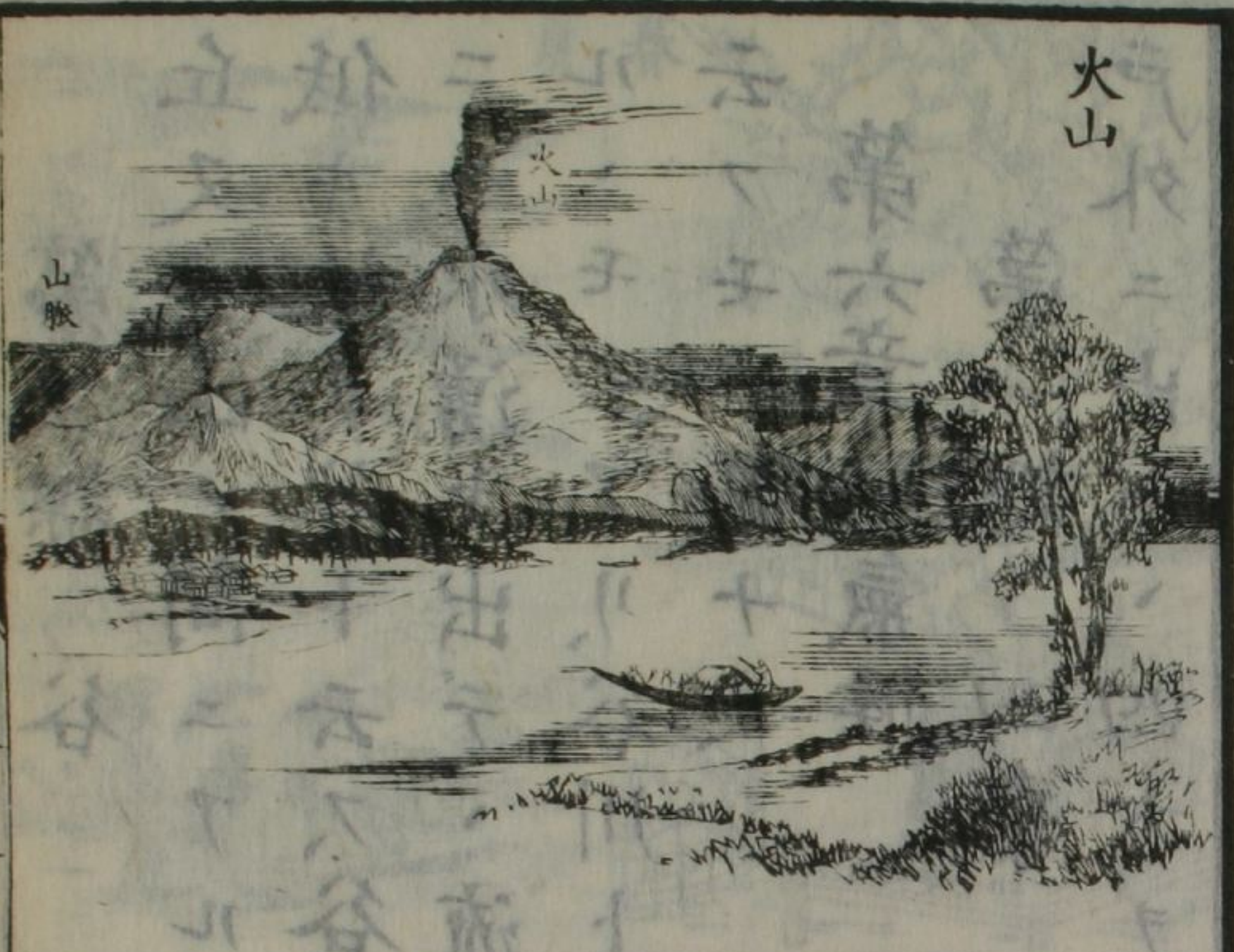


山



陸地ノ少シク高ク起  
 レルモノヲ、丘ト云ヒ、  
 丘ノ大ナルモノヲ、山  
 ト云フ故ニ、山ハ陸ノ  
 大ニ起レルモノナリ、  
 山ニ登リ始ムル處ヲ、  
 山麓ト云ヒ、山ノ最高  
 キ處ヲ、山頂ト云フ而  
 シテ、山頂ト山麓トノ

火山



間ヲ、山腹ト云フ、山腹  
 ヲ上リ、或ハ下ル處ハ  
 坂ニシテ、坂ノ頂ハ峠  
 ナリ、  
 又山ニハ、沙石灰塵ヲ  
 噴キ出スモノアリ、之  
 ヲ火山ト云フ、  
 山ノ相連リタルモノ  
 ヲ、山脈ト云フ、



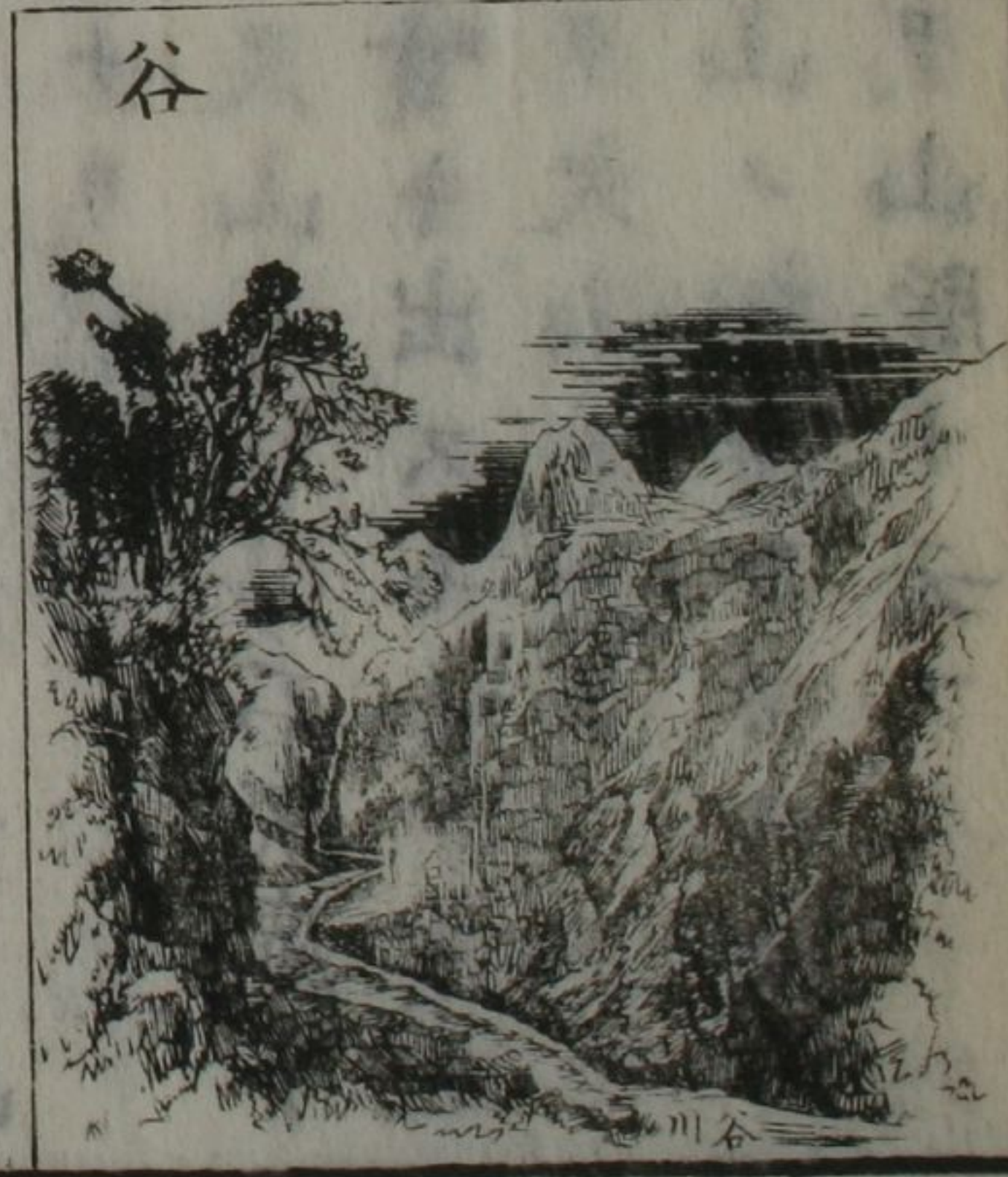
第三課 谷

丘又ハ山ノ間ニアル  
低キ地ヲ谷ト云ス谷  
ニハ水湧キ出テ、流  
ル、モノアリ、谷川ト  
云フモノ是ナリ、

第六章 氣候

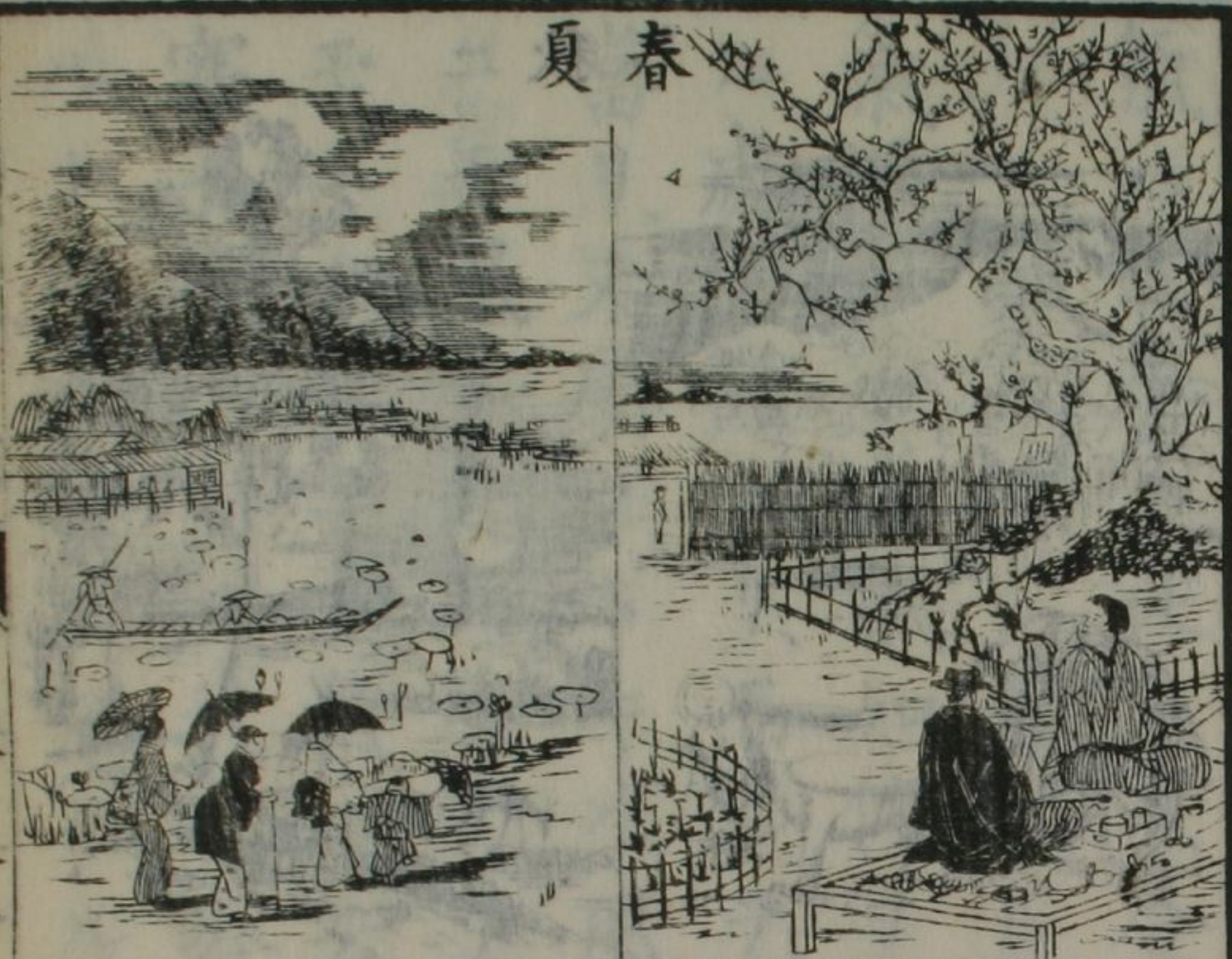
第一課 四季

戶外ニ出デ、四方ヲ眺ムレバ、時ニ由リテ



谷

夏 春



日長ク且ツ暖ニシテ  
鳥啼キ、花開キタルコ  
トアリ、單衣尚熱クシ  
テ、山野青々タルコト  
アリ、風吹き、木葉枯レ  
落ツルコトアリ、寒ク  
シテ、地上全ク雪積リ  
タルコトアリテ、其景  
色ノ移リ更ルコト止



冬秋



ム時十カルベシ、故ニ、  
一年ノ間ヲ四ニ分チ  
テ三月ヨリ五月迄ヲ  
春トシ、六月ヨリ八月  
迄ヲ夏トス、又九月ヨ  
リ十一月迄ヲ秋トシ、  
十二月ヨリ翌年ノ二  
月迄ヲ冬トス、此春夏  
秋冬ヲ四季ト云又天

氣ハ四季ニ從ヒテ各異ナルモ、  
第二課 温度

氣候トハ天氣如何ヲ話ストキニ、能ク用井  
ル處、語ナリ而シテ人歩ムトキハ、風身ニ  
當リ、又扇グトキハ、風ヲ起ルヲ見レバ、何處  
ニモ風ヲ起スモノアラザルナキヲ知ル、其  
モノハ、之ヲ空氣ト云フ、身邊ニアル空氣ノ  
寒ナルトキハ、我亦冷ナルヲ覺テ、空氣暖ナ  
ルトキハ、我又温ナルヲ感ズ、南方ハ氣候暖



熱ニシテ北方ハ氣候寒冷ナリ、故ニ南風吹  
 クトキハ暖熱ニシテ北風吹クトキハ寒冷  
 ナリ、又高キ山上ハ低キ平地ヨリモ寒冷ナ  
 リ、是高キ處ニアル空氣ハ低キ處ニアル者  
 ヨリ寒冷ナレバナリ、故ニ高山ノ頂ニハ常  
 ニ雪ヲ戴クモノアリ、  
 一年中、寒キ時日多ケレバ、氣候寒冷ト云ヒ、  
 熱キ時日多ケレバ、氣候炎熱ト云フ、而シテ、  
 寒熱甚シカラズシテ、温ナル時日多ケレバ、

氣候温和ト云フナリ、

第三課 濕氣

皿ニ入レタル水モ、雨後地上ニ溜リタル水  
 モ、時ヲ經ルトキハ、全ク乾クヲ見ル、是目ニ  
 ハ見エザレドモ、其水ハ空中ニ昇リタルナ  
 リ、此ノ如クシテ、地上ヨリ空中ニ上リタル  
 水ハ、雲トナリ、而シテ、雨ハ空中ノ雲ヨリ降  
 ルモノナリ、  
 一年中、雨降ルコト多ケレバ、濕ヒタル氣候



ト云ヒ、雨降ルコト少ケレバ、乾キタル氣候ト云フナリ、

第七章 生業

第一課 農牧

春ニ至レバ、人ノ鋤ヲ取り、鋤ヲ持テ、牛馬ヲ使役シテ、田野ヲ耕シ、穀物ノ種ヲ下スヲ見、秋ニ至レバ、鎌ヲ以テ、



熟シタル穀物ヲ刈リ、果物ヲ收ムルヲ見ル

農牧

ベシ、又桑ヲ摘ミ、蠶ヲ養フヲモ知ルベシ、此ノ如ク、土地ヨリ衣服、食物ヲ得ル爲ニ、種々ノ業ヲナスヲ、農業ト云ヒ、其業ヲナス人ヲ、農夫ト云フ、



新撰地誌 卷之二



又牛馬羊豚等ヲ畜フヲ、牧畜ト云フナリ、

第二課 漁獵

河海ノ濱ニ住居スル人多クハ魚類ヲ捕ルコトヲナスモノアリ、其人ノナス業ヲ、漁業ト云フ、又山林ニ近ク住ム人ハ、鳥獸ヲ捕ルコトヲ

漁獵

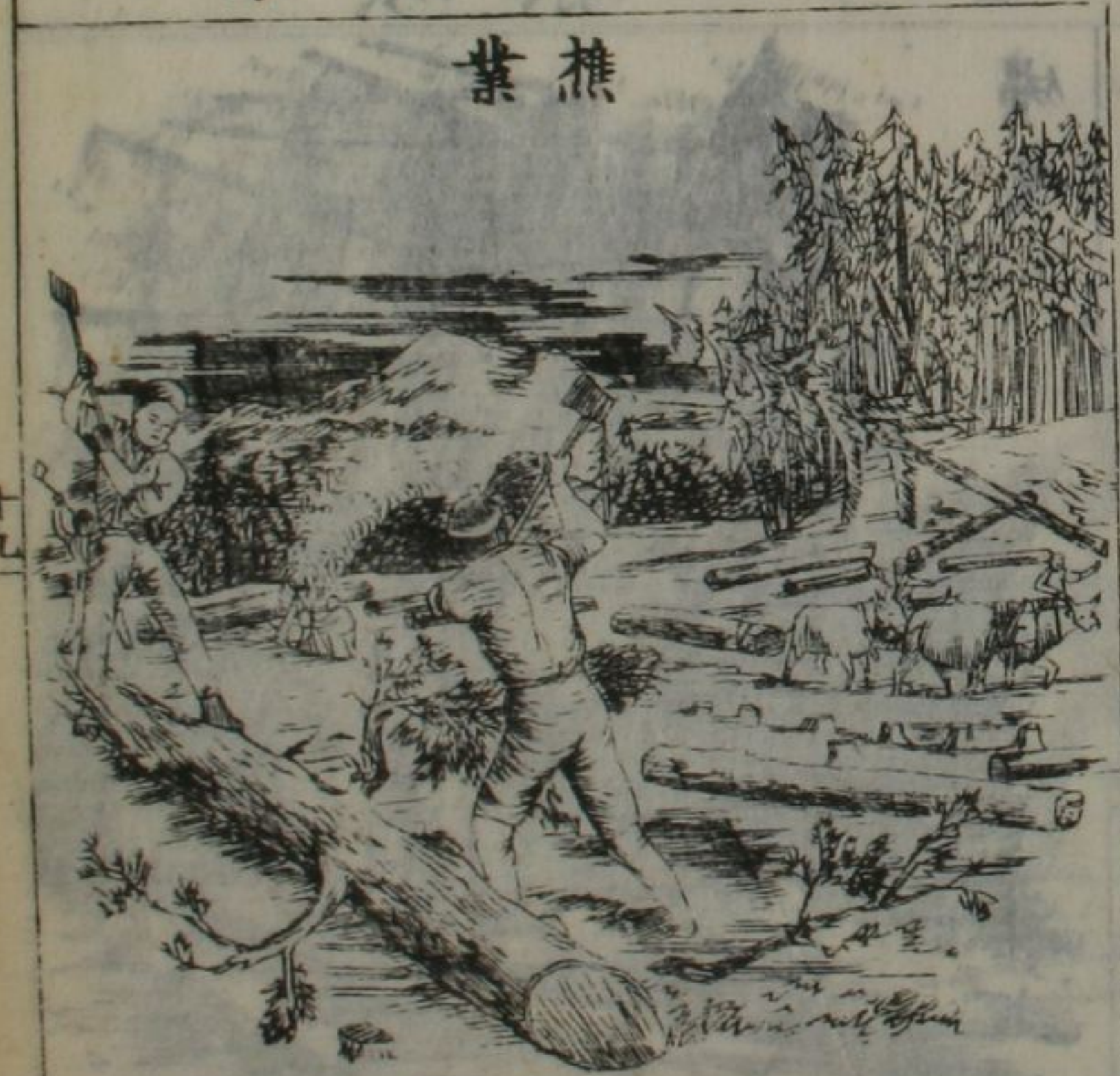


ナス人アリ、其人ノナス業ヲ、獵業ト云フ、

第三課 樵礦

家ヲ建テ、橋ヲ架クル等ニ、用井ル木材ヲ得ル爲ニ、森林ニ入りテ、木ヲ伐リ、或ハ之ヲ割クコトヲナス人アリ、其人ノナス業ヲ、樵業ト云フ、

樵業

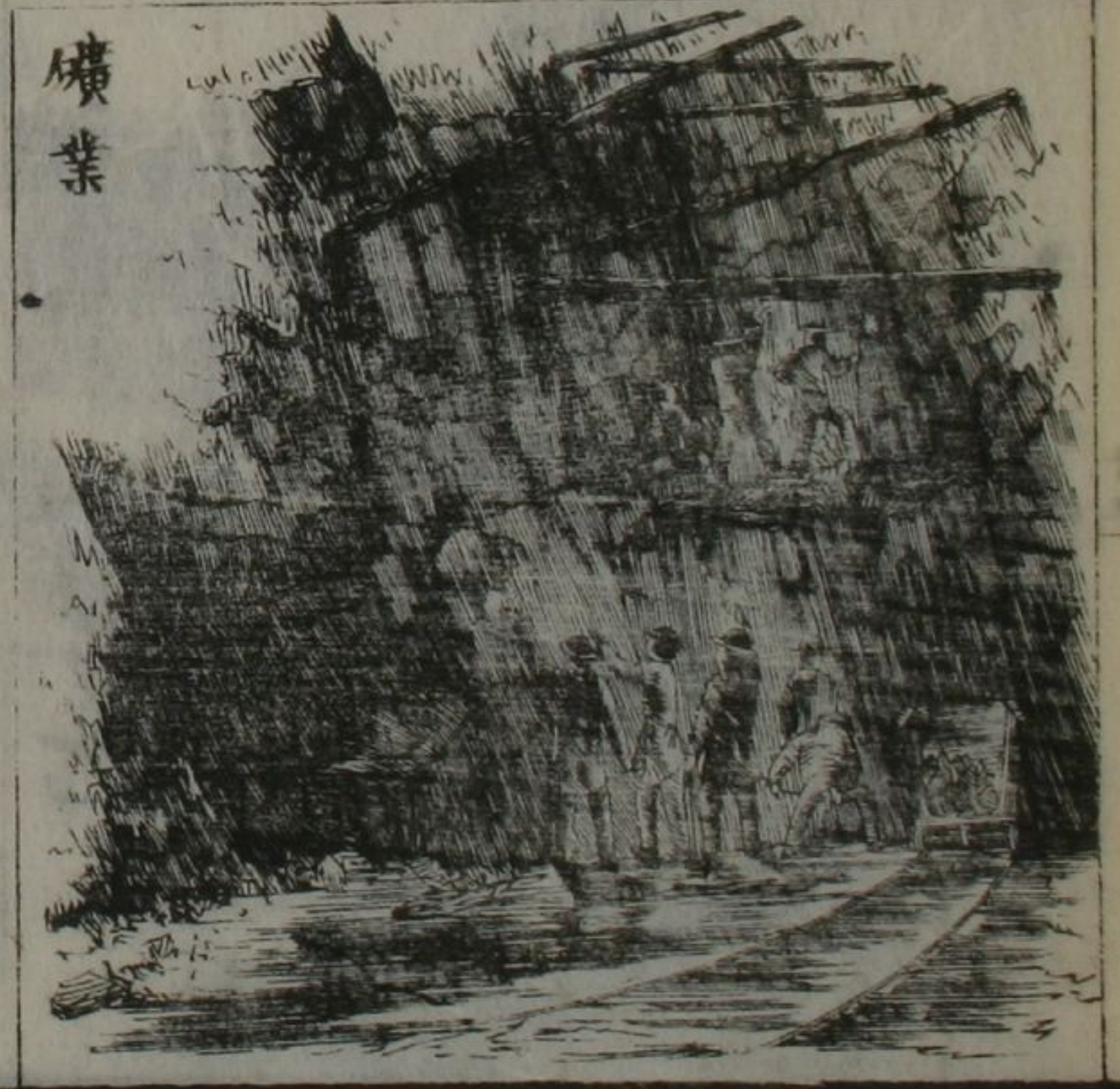




金銀銅鐵石炭等ハ地中ヨリ掘リ出スモノナリ此等ノモノヲ礦物ト云ヒ其業ヲ礦業ト云フ而シテ礦物ノ出ヅル處ヲ礦坑ト云フナリ

第四課 工商

人ニ入用ナル縮布家具器械其他種々ノ物



礦業

品ヲ造ルコトヲ工業ト云フ而シテ造リタル物ヲ製造物ト云フ以上ノ諸業ニ由リテ得タルモノヲ產物ト云フ產物ヲ買ヒ集メ又之ヲ賣リ捌クヲ商業ト云フ商業ヲナス人ヲ商人ト云フ

工業





商人ニハ、諸處へ行キ  
テ、産物ヲ賣買スルモ  
ノアリ、又其家ニ止リ  
テ、之ヲ營ムモノアリ、  
農牧漁獵樵礦立商ノ  
諸業ハ、人民之ヲ務メ  
テ、生活スルモノナレ  
バ、總ベテ此等ノ業ヲ  
生業ト云フ、



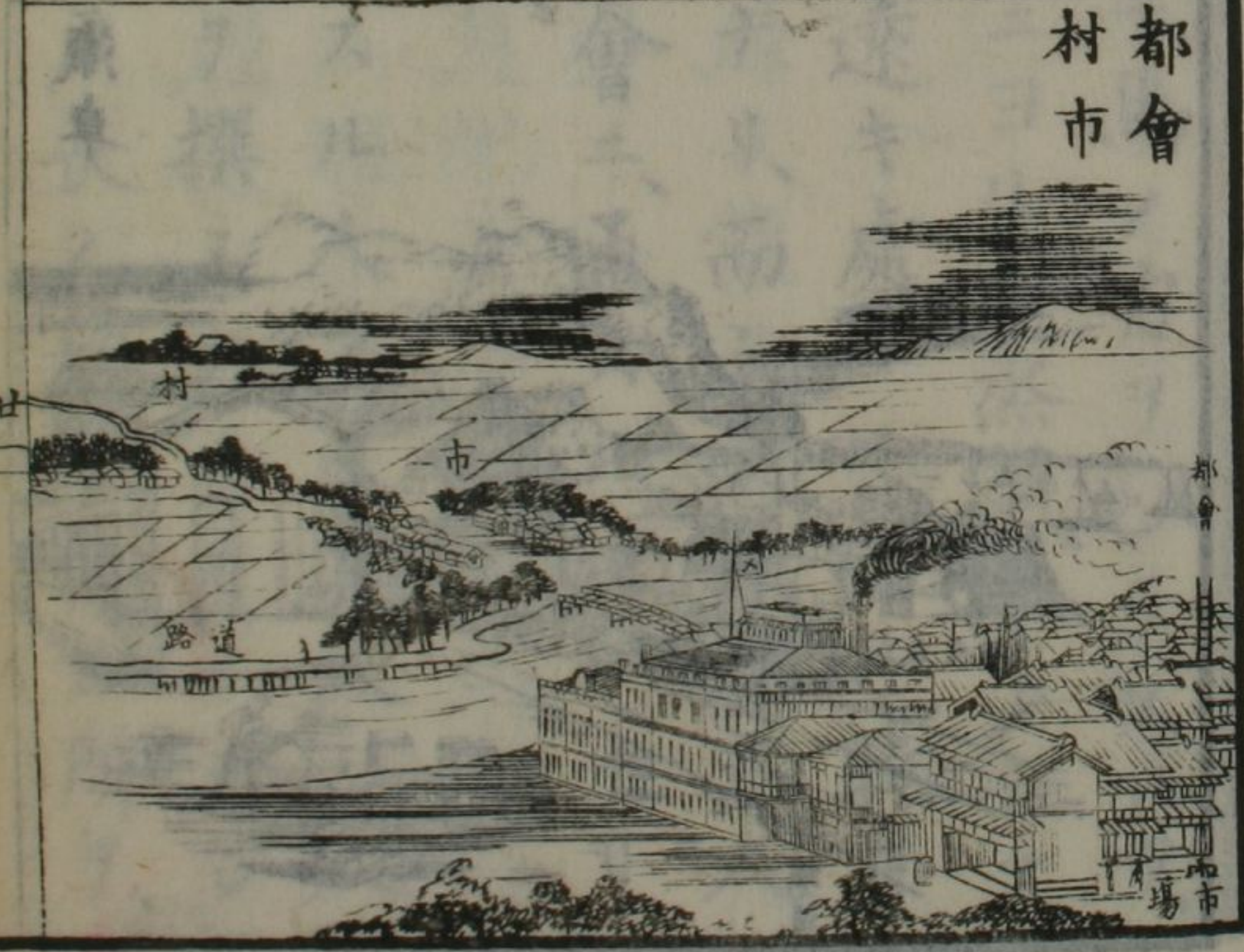
商業

第八章 行政

第一課 都會村市

人家ノ少シク集レル  
處ヲ、村ト云ヒ、人民多  
ク、家屋密ナル處ヲ、市  
ト云ヒ、市ノ大ナル者  
ヲ、都會ト云フ、  
村市ノ間ニアルモノ  
モ、亦田野ノ間ニアル

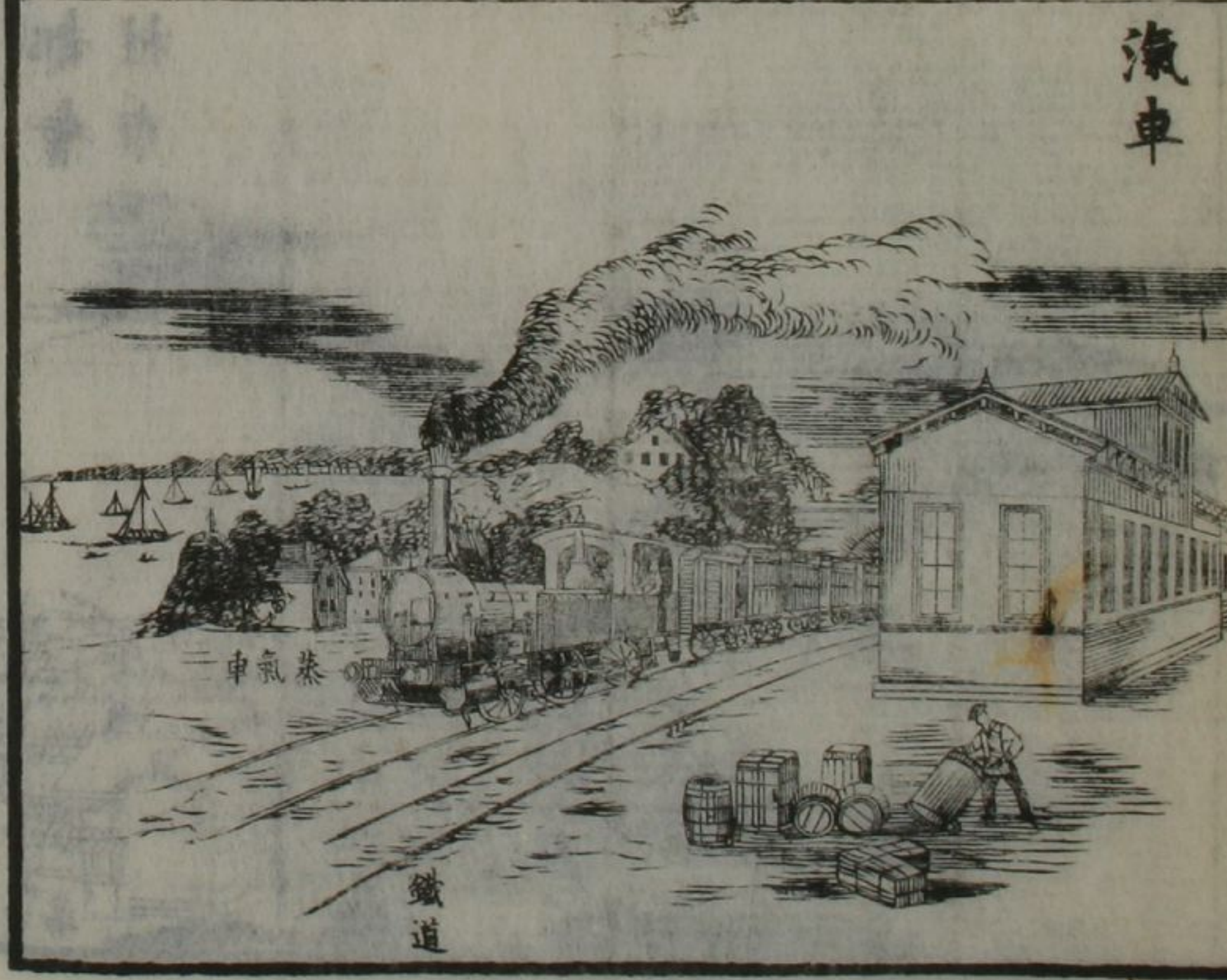
都會  
村市





モノモ、総ベテ、人ノ往  
来スル處ヲ、道路ト云  
フ、  
道路ヲ堅ク築キテ鐵  
條ヲ布キ、車ノ人或ハ貨  
物ヲ載セ、其上ヲ往来  
スルモノヲ、鐵道ト云  
フ、車ハ一個或ハ數個相  
連リテ、速ニ走ルモノア

汽車

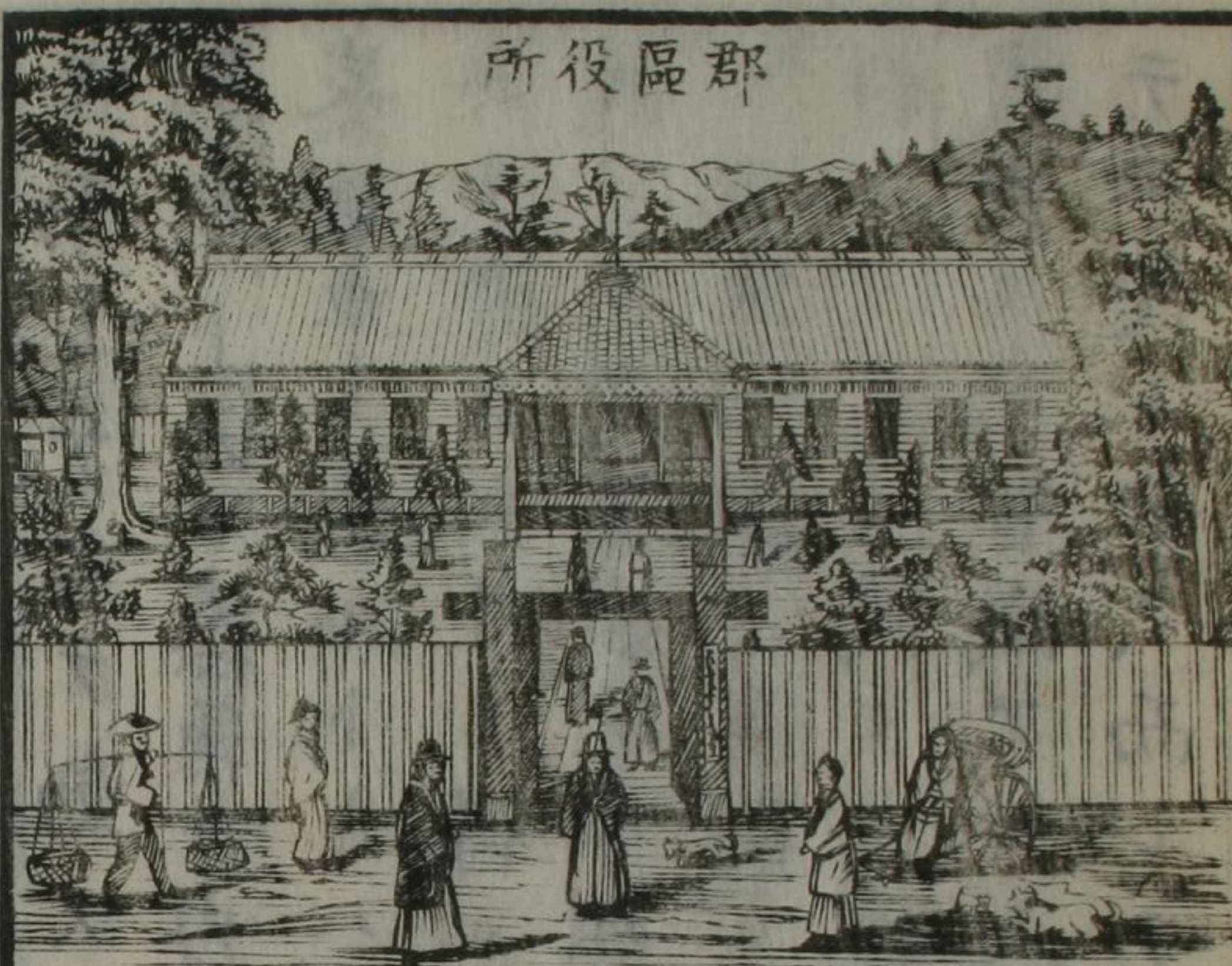


リ、而シテ、之ヲ動スニ、馬ノ力ヲ以テスルヲ、  
馬車ト云ヒ、蒸氣ノ力ニヨルヲ、蒸氣車ト云フ、  
蒸氣車ニ乗ルトキハ、遠キ處ニモ、短キ時日  
ニテ、達スルヲ得ルナリ、而シテ、鐵道ハ、人  
民多ク商業盛ナル都會ニ、通ズルモノナリ、  
第二課 區劃  
村ニハ、其人民ヲ支配スル人アリ、其人ハ、人  
民中ヨリ、智識アル人ヲ撰ミタルモノニシ  
テ、戸長ト云フ、而シテ、戸長ノ務ヲ執ル所ヲ、



新編  
郡區  
長官  
卷之

郡區役所



戸長役場ト云フナリ、  
數多ノ村市集レバ、一  
ノ郡トナリ、其郡ノ人  
民ヲ支配スル人ヲ郡  
長ト云ヒ、郡長ノ務ヲ  
執ル所ヲ、郡役所ト云  
フ、  
郡ノ集ルトキハ、國ト  
ナルナリ、故ニ、國ヲ郡

二分チ、郡中ニ數多ノ村アリ、又市アルモノ  
ナリ、

又都會ノ大ナルモノハ、分チテ區トナシ、區  
内ノ人民ヲ支配スル所ヲ、區役所ト云ヒ、其  
長ヲ區長ト云フ、

數多ノ郡區ヲ統ベテ支配スル處ヲ、府或ハ  
縣ト云ヒ、府縣ノ長ヲ、知事ト云フ、郡區長ハ、  
府縣知事ノ命ニ從ヒ、戸長ハ郡區長ノ命ニ  
從ヒテ、人民ヲ支配ス、



公卿大夫士人  
皆宜各守其分  
不可逾越  
若夫  
大臣  
受命  
之重  
不可  
不慎  
也  
故曰  
君使臣  
臣事君  
君之  
所使  
不可  
不察  
臣之  
所事  
不可  
不敬  
此  
君臣  
之大  
義也  
夫  
臣之  
事君  
猶  
父之  
事  
子也  
父  
教子  
子  
敬父  
此  
父子  
之大  
義也  
夫  
君臣  
父子  
者  
天下  
之  
大  
經也  
不可  
亂也  
亂之  
則  
天下  
大  
亂  
矣  
此  
聖人  
所以  
重  
之  
也  
故曰  
君  
君也  
臣  
臣也  
父  
父也  
子  
子也  
此  
四  
大  
綱也  
綱  
既  
立  
則  
目  
張  
目  
張  
則  
萬  
事  
可  
治  
矣  
此  
聖人  
所以  
垂  
法  
也  
夫  
臣  
之  
事  
君  
猶  
水  
之  
就  
下  
猶  
木  
之  
就  
土  
猶  
火  
之  
就  
燥  
猶  
金  
之  
就  
剛  
此  
自然  
之  
理  
不可  
違  
也  
故曰  
君  
之  
命  
臣  
臣  
之  
事  
君  
此  
臣  
之  
分  
也  
不可  
不  
守  
也  
夫  
臣  
之  
事  
君  
猶  
身  
之  
事  
心  
猶  
心  
之  
事  
神  
此  
身  
心  
神  
之  
理  
不可  
違  
也  
故曰  
君  
之  
命  
臣  
臣  
之  
事  
君  
此  
臣  
之  
分  
也  
不可  
不  
守  
也  
夫  
臣  
之  
事  
君  
猶  
水  
之  
就  
下  
猶  
木  
之  
就  
土  
猶  
火  
之  
就  
燥  
猶  
金  
之  
就  
剛  
此  
自然  
之  
理  
不可  
違  
也  
故曰  
君  
之  
命  
臣  
臣  
之  
事  
君  
此  
臣  
之  
分  
也  
不可  
不  
守  
也

臣之事君猶水之就下猶木之就土猶火之就燥猶金之就剛此自然之理不可違也故曰君之命臣臣之事君此臣之分也不可不守也



日本總圖



高地  
 低地

新撰地誌

新撰地誌



新編 地理 卷之四

第二篇 日本誌

第一章 前誌

第一課 位置

我日本ハ、亞細亞洲ノ東部、太平洋ノ西北ニアリ  
 テ、四ノ大島ト、數多ノ小島トヨリ、成レル島國ナ  
 リ、而シテ中央ニアリテ、最大ナルモノヲ、本州ト  
 シ、其西南ニアルニ、二大島ヲ、四國、九州トシ、其東北  
 ニアルニ、一大島ヲ、北海道トス、  
 第二課 區劃  
 全國ヲ大別シテ、畿内、八道、及琉球トス、

新編 地理 卷之四



畿内ハ本州ノ中部ニアリ、畿内ノ東ニアリテ、東  
南海ヲ帯ビタル地方ヲ、東海道トシ、北陸道ハ北  
海ニ面スル地方トス、東海、北陸兩道ノ間ニアル  
地方ト、其東北、海ヲ帯ビタル地方トヲ、東山道ト  
シ、舊蝦夷島ト、其東北ニアル、千島諸島トヲ合セ  
テ、北海道トス、畿内ノ西方ニ接スル、一帯ノ地方ハ  
其南部ヲ、山陽道トシ、北部ヲ山陰道トス、而シテ  
北海ニアル、二小島中ノ佐渡ハ、北陸道ニ屬シ、隱  
岐ハ、山陰道ニ屬ス、又畿内ノ南ニ接シ、南海ニ斗  
出スル地方ト、四國島ト、又淡路ノ一小島トヲ合

セテ、南海道トシ、九州島ト、壹岐、對馬ノ二小島ト  
ヲ合セテ、西海道トス、琉球ハ、西海道ノ西南、洋中  
ニアル諸島ナリ、

第二章 畿内

第一課 位置及諸國

畿内、又五畿内トモ云フ、東ハ、東海、東山二道ニ接  
シ、南ハ、南海道ニ境シ、西北ハ、山陰、山陽ノ二道ニ  
連リ、西方ノ一部、海ニ臨ム、  
畿内ノ北部ニアルハ、山城ニシテ、其南ニアルハ、  
大和ナリ、又大和ノ西ニアルハ、河内ナリ、海ニ臨



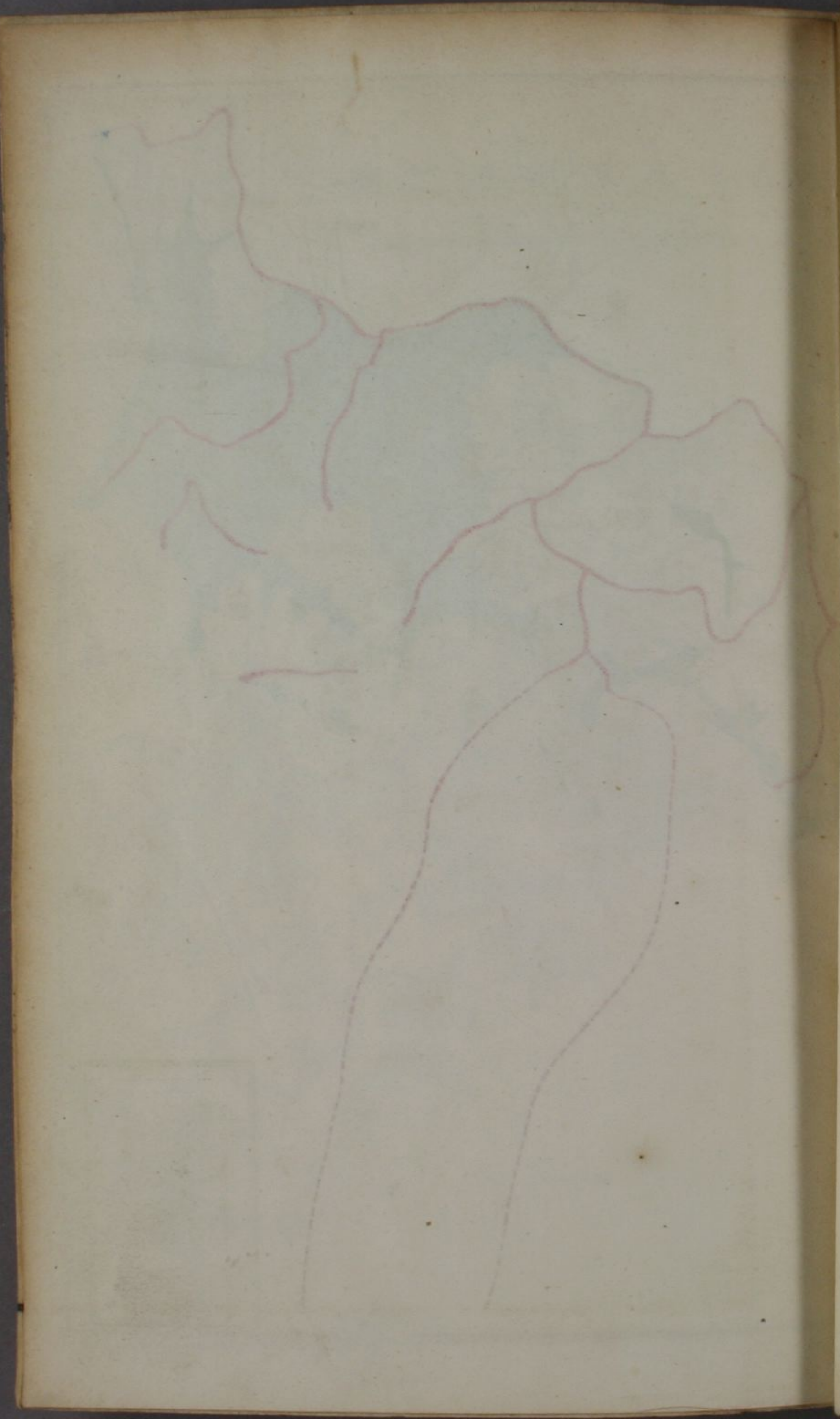
メル地方ニシテ、河内南半ノ西ニアルヲ、和泉トシ、山城河内ノ西ニアルヲ、攝津トス、南ニテハ

第二課 海岸水陸

畿内ハ、西方ノ一部ノミ、海ニ面シテ、海岸亦短ク、岬港共ニ多カラザレドモ、景色佳ナル處多シ、攝津ノ神戸、兵庫兩港、又其和田岬ト、和泉ノ觀音崎トハ、各其名アルモノナリ、而シテ此兩岬ノ間ヲ、大阪灣又ハ、茅渚海ト云フ、

第三課 山

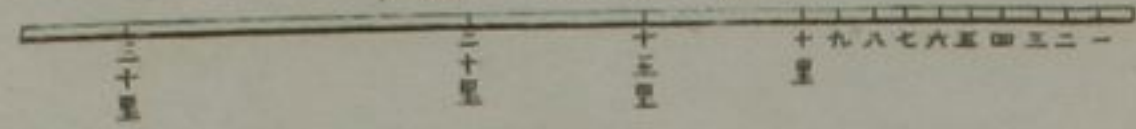
海岸ヲ除クノ外、低地少ク、國境ハ、大概山脉ニシ





畿内及東海道之圖

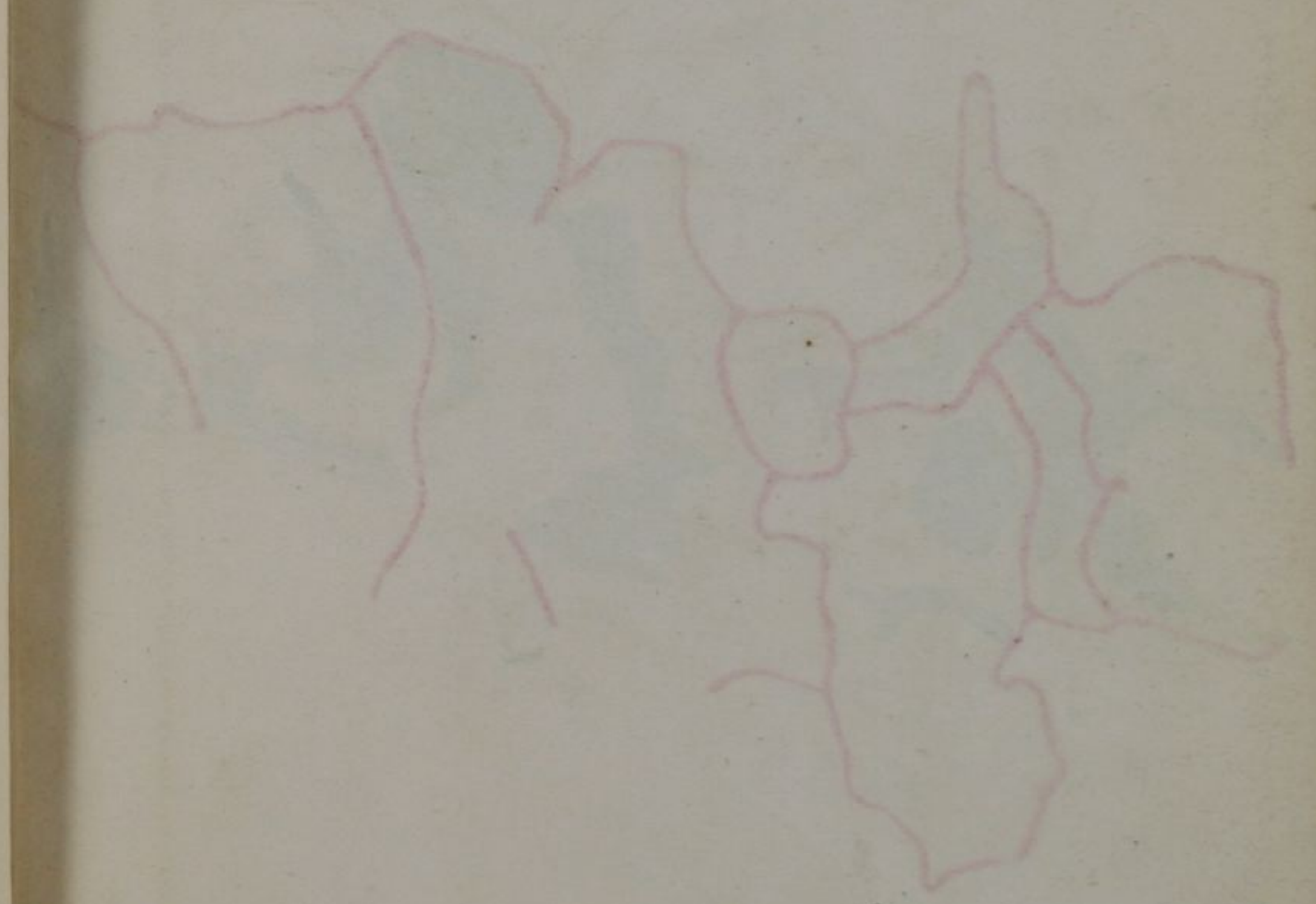
日本陸里  
二百里十分一尺



新撰  
大日本  
地圖



天、大和ノ境ニハ、殊ニ高山多シ、山城ノ正北ニアルハ、鞍馬山ニシテ、東北ニアルハ、比叡山ナリ、愛宕山ハ、西北ニアリテ、ソノ麓ハ、高雄山ハ、紅葉ニヨリ、嵐山ハ、櫻花ヲ以テ、著名ナリ、又東南隅ナル、笠置山ハ、後醍醐帝ノ、賊ヲ避ケタマヒシ處ナルヲ以テ、著名ナリ、吉野山ハ、大和ニアリ、山上嶽其上ニ聳エ、稻村岳國見岳等相連レリ、之ヲ金峰山ト總稱ス、吉野山中ニハ、櫻樹多ク、花時ノ風色、海内無雙ト稱ス、金剛山大和葛城山ハ、河内、大和ノ境ニアリテ、千早城





址其半腹ニアリ、是楠正成ノ據リシ處ナリ、武庫山ハ、攝津ニアリ、摩耶、再度諸山ト連ル、其東ヲ西宮トシ、西南ヲ須磨トス、山陰ヲ有馬郡トス、有名ノ温泉場アリ、

第四課 河湖

河流ハ、大概源ヲ東北ニ發シ、西南ニ流レテ、海ニ注グ、  
淀河ノ上流ヲ、宇治川ト云フ、近江ノ琵琶湖ニ發シ、山城ニ入り、加茂、桂上流、木津、三川ヲ合セ、河内、攝津ヲ經テ、數派トナリ、海ニ注グ、淀川ハ、畿内中

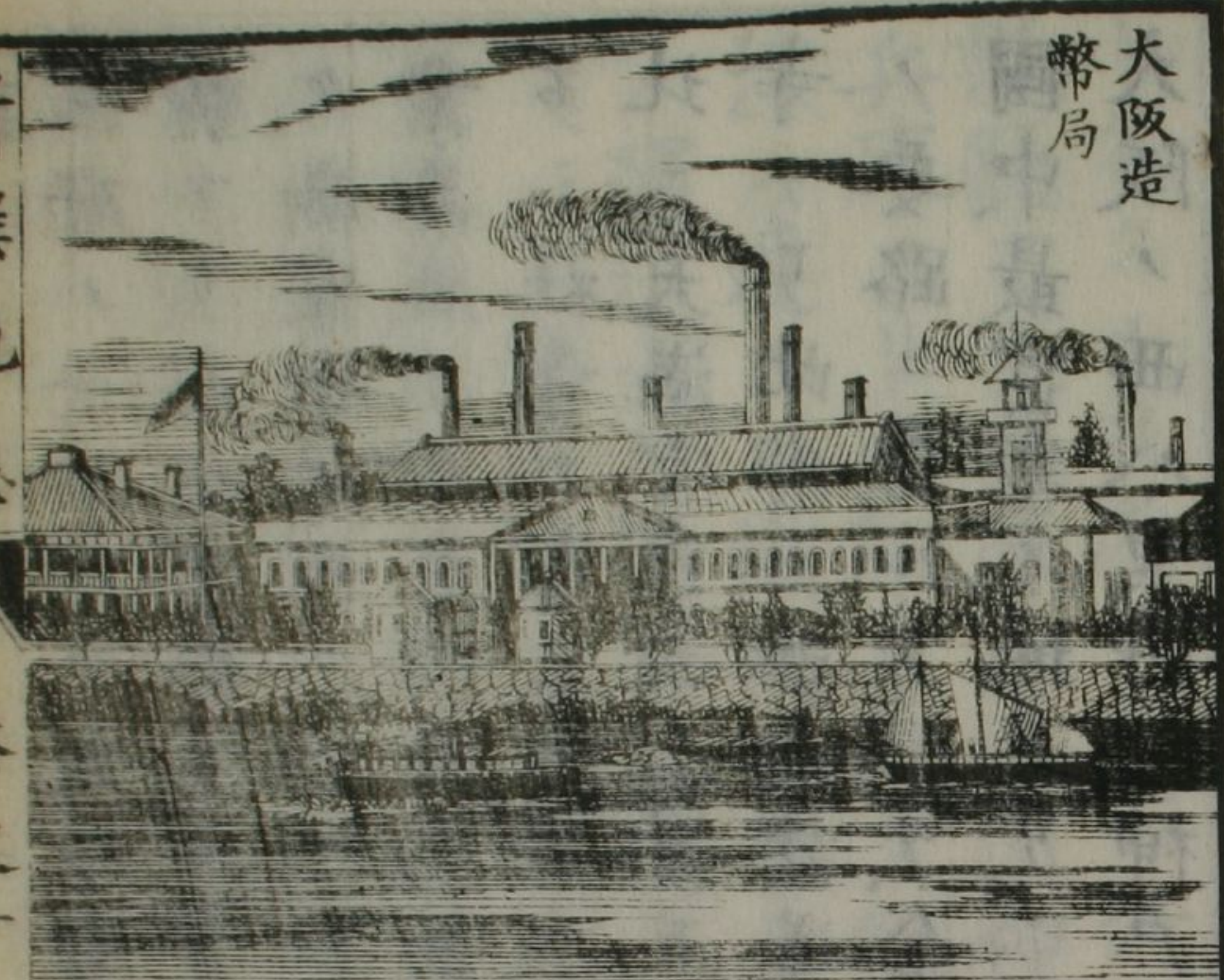
最必要ナル、大河ニシテ、ソノ流甚緩ク、大阪ヨリ伏見マデ、舟運ノ便アリ、殊ニ近年ハ、川蒸氣船、常ニ來往セリ、  
吉野川ハ、大和ニアリ、源ヲ大臺原山ニ發シ、西流シテ、紀伊ニ入ル、大和川ハ、其北ニアリ、亦西流シテ、河内ノ中央ヲ貫キ、和泉、攝津ノ境ヨリ、茅渚海ニ注グ、  
畿内ハ、湖少ク、唯山城ノ巨椋池ヲ、稍大ナリトシ、河内ノ狭山池、コレニ次グ、

第五課 都會



京都ハ山城ニアリ、平安城ト稱シ、我國三府ノ一ニシテ、京都府廳アリ、桓武帝以來、千七十餘年間ノ帝都ニシテ、人口甚多久、市街井然、家屋清潔ナリ、加茂川、其東部ヲ貫キ、其西ヲ洛中ト云ヒ、其東ヲ洛外ト云フ、東山、西山共ニ、勝地頗ル多久、祇園、清水、華頂山、嵐山、高雄山等、最著名ナリ、伏見ハ、淀河ノ北岸ニアリテ、京都ニ接シ、京都大坂ノ要路ニ當リ、水運ニ便ナルヲ以テ、稍殷賑ナリ、奈良ハ、大和ノ北境ニアリ、是亦往昔ノ帝都ニシ

大阪造幣局

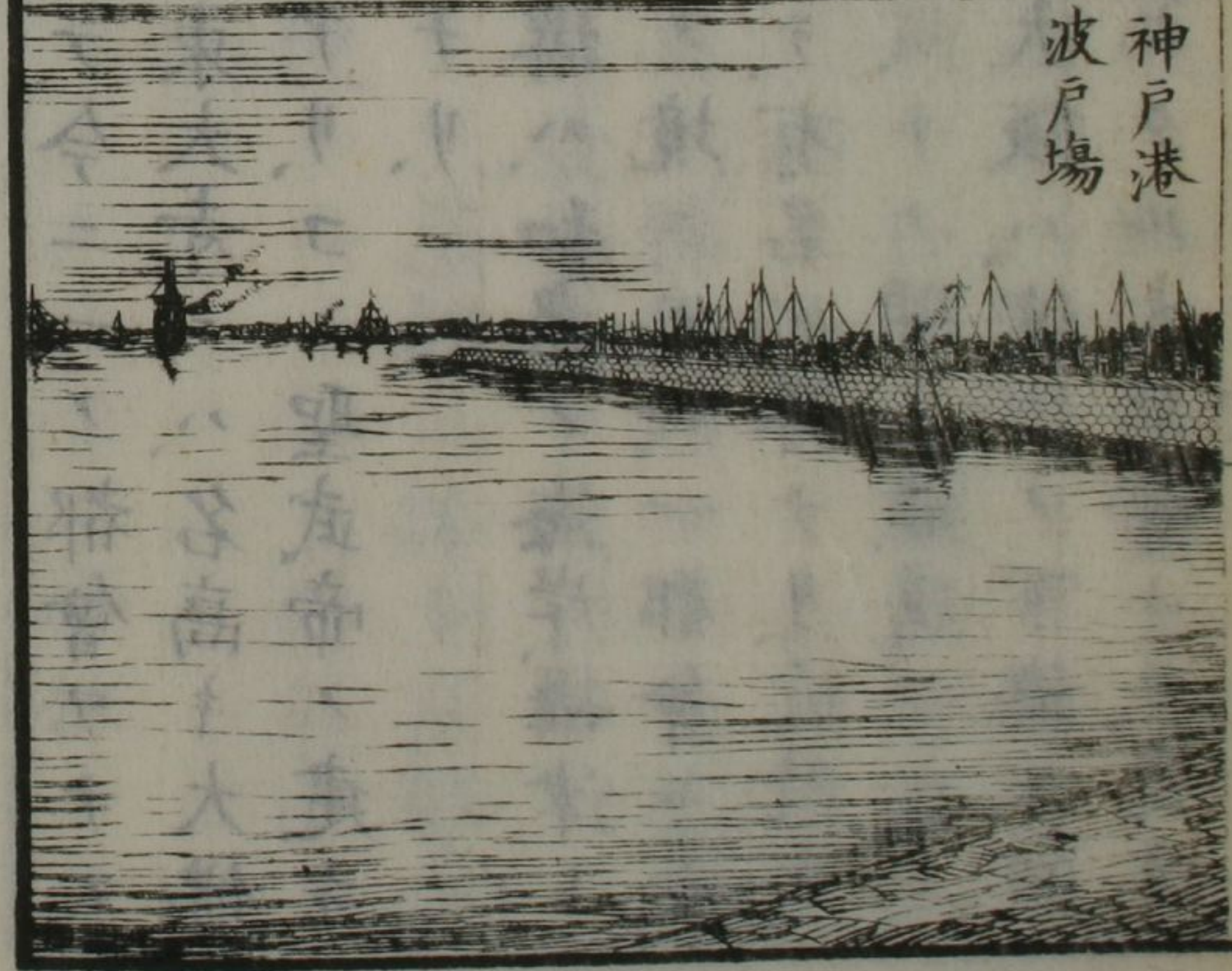


テ、今ニ一ノ都會ヲナス、東大寺ニハ、名高キ大佛アリ、コレ聖武帝ノ建立ナリ、堺ハ、和泉ノ海岸、攝津トノ境ニアル、一都會ニシテ、有名ノ港ナリ、近時、大阪トノ間ニ鐵道ヲ設ク、大阪ハ、淀川ノ下流ニ、浴ヒタル都會ナリ、是亦



三府ノ一ニシテ、大阪府  
廳アリ、人口京都ヨリ多  
ク、商家市店軒ヲ並べ、商  
業甚盛ナリ、府内溝渠最  
多シ、社寺ノ有名ナルハ、  
北ニ天満宮、東南ニ四天王  
寺アリ、此府ハ西南諸道  
ノ要路ニ當ルヲ以テ、全  
國中、最富庶ノ地タリ、  
大阪ノ西八里許ニ、神戸

神戸港  
波戸場



ト名クル、良港アリ、市街兵庫ニ連ル、神戸ニ兵庫  
縣廳アリ、兵庫ニ湊川神社アリ、楠正成殊ニ近年  
兵庫ヨリ大阪、京都ヲ經テ、東山道ナル、近江ノ大  
津ニ達スル、鐵道ヲ築キタレバ、旅客ノ往復、物貨  
ノ運送、大ニ便宜ヲ得タリ、

第六課 氣候及産物

氣候ハ、大概溫和ナレドモ、山地ハ、一般寒冷ナリ、  
西方海岸地方、及河内ノ大部ハ、田野開ケ、河流通  
ジ、地味肥エ、北方宇治川近傍ハ、茶ニ適ス、  
産物ハ、山城茶、宇治攝津酒、池田灘、最良品ニシテ、京



都ノ西陣織鴨川深清水焼ハ頗ル精巧ナリ大和ノ錦奈良晒布吉野紙吉野葛筆墨大和河内ノ木綿堺ノ緞通及物攝津ノ御影石神戸ノ牛等皆著名トス

第三章 東海道

第一課 位置及諸國

東海道ノ西ハ畿内ニ接シ北方一帶東山道ヲ受ケ東南太平洋ニ面ス伊勢志摩尾張三河遠江駿河伊豆相摸武藏安房上總下總常陸ノ十三國ハ皆海ニ瀕シ伊賀甲斐ノ二國ハ連山之ヲ四周ス

第二課 海岸水陸

伊勢ノ海ハ伊勢ト尾張トノ間ニ入リタル内海ニシテ志摩ト三河ノ伊良胡崎ト相對シテ其口ヲ扼ス  
志摩ノ最南ニ斗出セル岬ヲ麥崎ト云フ東方遙ニ伊豆ノ石廊崎ニ對ス其間海上七十五里之ヲ遠州灘ト云フ遠江ノ御前崎其間ニ在リ  
羽豆崎一名師崎ハ尾張ノ最南ニ斗出セル岬ニシテ東南三河ノ伊良胡崎ト相對ス其距離三里ニ過ギズ



尾張ト、三河トノ間ニ、三河灣アリ、灣ノ西北ヲ衣浦ト云フ、

遠江ノ西南ニ、一ノ内海アリ、濱名湖ト云フ、其海口ヲ、今切ト名ク、近時、橋ヲ架ス、長サ一里餘、我國

第一ノ長橋ナリ

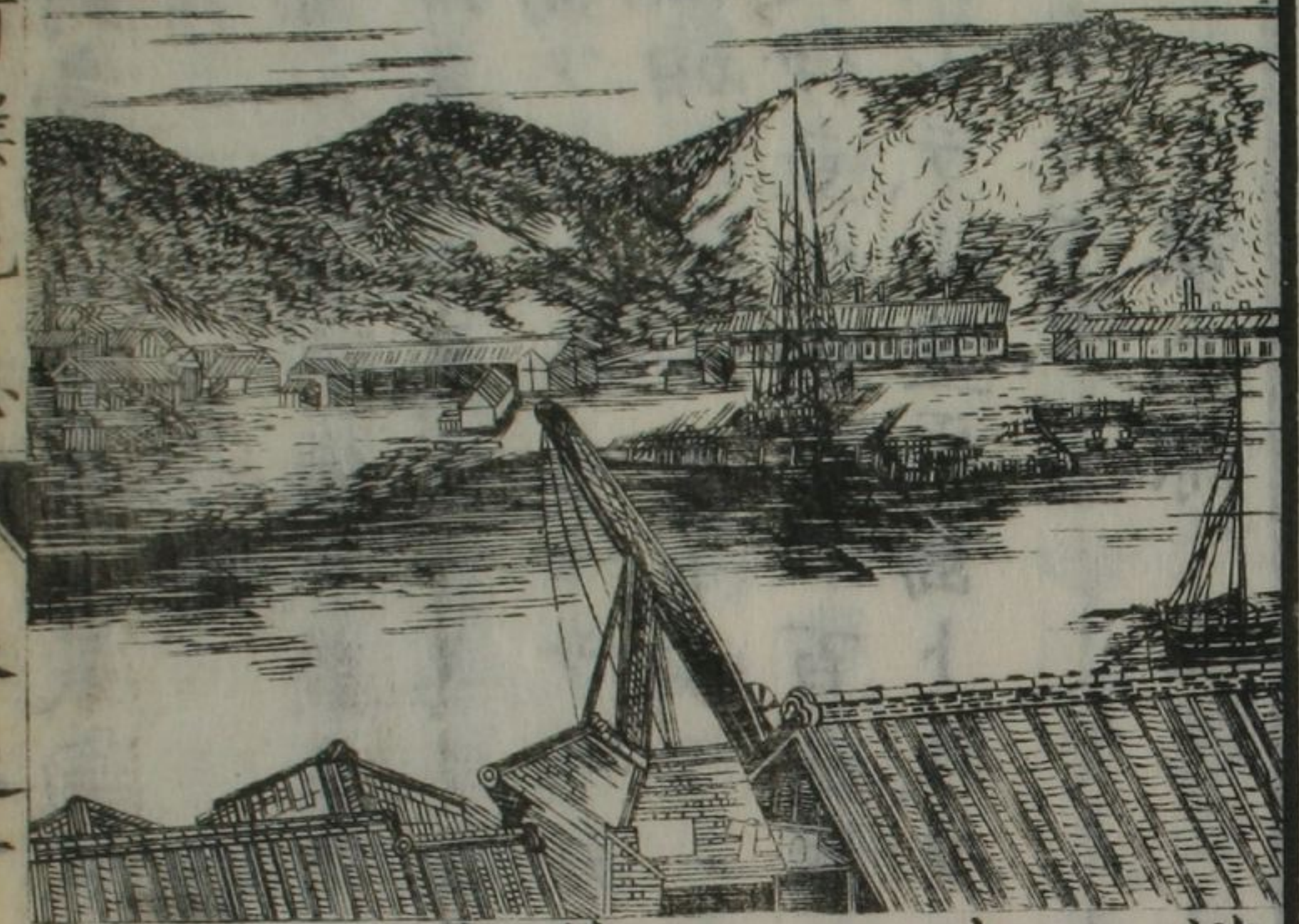
遠江ノ御前崎ト、伊豆ノ石廊崎トノ間ヲ、駿河灣トス、三保沙嘴ハ、東向シテ、灣内ニ斗出スルコト

凡一里、滿洲翠松枝ヲ交工、風景秀麗ナリ、其端北

方内地ト相對シテ、清水ノ一港ヲナス

相摸ノ真鶴崎ハ、東方遙ニ三寄ト相對シテ相

横須賀造船所



摸灣ヲナス、三崎ノ東北ニ、觀音崎アリ、上總ノ富津崎ト相對シ、東京灣ノ口ヲナス、共ニ要害ノ地タルヲ以テ、近時砲臺ヲ築ケリ、東京灣ハ、東西七里南北二十餘里、中ニ横濱港、横須賀港アリ、横須賀ノ造船所ハ、殊ニ有名ナリ、



野島崎ハ、安房ノ最南ニアリ、大東崎ハ、上總ノ東岸ニアリ、大吠崎ハ、下總ノ東岸ニアリ、島ハ、伊豆ノ海上最多ク、大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御倉島ヲ、七島ト稱ス、八丈島ハ、御倉島ノ南、二十里ニアリ、伊豆ノ南端ヲ距ルコト、大概四十六七里ナリ、又伊豆ノ南方、二百餘里ノ洋中ニアル、諸島ヲ、合稱シテ、小笠原島トス、ソノ最大ナルモノヲ、父島母島ト云フ、

第三課 山

高山ハ、多ク西北ノ境ニ、相連レリ、伊勢ニ、鈴鹿山アリ、三河ニ、鳳來寺山アリ、遠江ニ、秋葉山アリ、共ニ有名ナリ、

富士山ハ、駿河、甲斐ニ跨リ、高サ一萬二千尺ニ達ス、我國第一ノ高山ニシテ、四時白雪ヲ戴ケリ、此山ハ、噴火山ナルヲ以テ、山頂ニハ、周回一里許ノ噴火口アリ、ソノ脈、東南ニ延キテ、足柄、箱根ノ諸山トナリ、相摸ノ境ヲナシ、南伊豆ノ天城山ニ連レリ、

金峰山ハ、甲斐ノ北境ニ、屹立シ、其脈、西南ニ延キ



テ、駒岳、白根山トナリ、身延、七面ノ諸山ニ連ル、武藏ノ西隅ニ、群山アリ、之ヲ秩父山ト云フ、武甲三峯ノ數峯、コノ間ニ峙ツ、其脉西南ニ到リテ、甲斐相摸ノ境ヲナス、雨降山一名大山ハ、相摸ノ中央ニ峙立シ、天目山ハ、甲斐ノ東北ニアリ、安房ノ鋸山ハ、奇山ニシテ、形恰鋸ノ齒ノ如シ、上總ノ鹿野山ハ、鋸山ニ連レリ、山頂共ニ、眺望絶佳ナリ、

常陸ノ北方ハ、山相續キテ、八溝、金砂ノ諸高山トナル、筑波山ハ、脉ヲ八溝山ニ連テ、平野ノ間ニ聳エタル、高山ナルヲ以テ、遠隔ノ地ヨリ、望ムヲ得ベシ、  
第四課 河湖

河流ハ、大概東山道ヨリ來リ、東南ニ流レテ、海ニ入ル、木曾川ハ、著名ノ大川ニシテ、長サ凡四十六里、美濃、尾張ノ境ニ、浴ヒテ流レ、下流更ニ數派ニ分レテ、伊勢ノ海ニ注グ、矢矧川、豐川、大平川共ニ三河ニアリテ、皆内海ニ注グ、



大井川ハ源ヲ駿河ノ北境ヨリ發シ、駿河遠江ノ境ヲ流レ、天龍川ハ源ヲ信濃ノ諏訪湖ニ發シテ、遠江ノ中央ヲ流レ、共ニ海ニ注グ

富士川ハ甲斐ノ山間ヨリ來リ、富士山ノ西麓ヲ繞リ、駿河ノ中央ヲ流レテ、海ニ注グ、水勢極メテ急ナリ

馬入川上流、相摸川ハ甲斐ヨリ來リ、東流シテ、相摸ヲ貫キ、海ニ入ル

武藏ニ多摩川、荒川アリ、二川共ニ東京灣ニ入ル、荒川ノ下流ヲ隅田川ト云フ

利根川ハ一二、阪東太郎ト稱ス、源ヲ上野ノ山間ニ發シ、下流ニ派トナル、其本流ハ下總ノ銚子口ニ至リ、海ニ注ギ、支流ハ東京灣ニ入ル

常陸ニ二條ノ大河アリ、一ヲ那珂川ト云ヒ、又一ヲ久慈川ト云フ

印旛沼周回九十二里、南北七里、東西八里、下總ニアル大湖ニシテ、舟楫ノ便、漁魚ノ利アリ、霞浦周回三十六里、南北六里、東西七里、共ニ常陸ニアリ、湖中亦多ク、魚類ヲ産ス、其水利根川ニ注グ

第五課 都會



伊勢ノ桑名ハ木曾川ノ口ニアル一港ニシテ尾張ニ渡ルハ要津ナリ其南海岸ニ四日市安濃津アリ安濃津ニハ三重縣廳アリ共ニ繁華ノ地ナリ宇治ニ皇太神宮アリ之ヲ内宮ト稱シ山田ニ豐受太神宮アリ之ヲ外宮ト稱ス鳥羽ハ志摩ノ北海岸ニアル要港ナリ尾張ノ名古屋ハ屈指ノ大都會ニシテ南熱田ニ接ス商業繁ク市街盛ニシテ三府ニ亞グ愛知縣廳アリ三河ニ岡崎豐橋アリ

遠江ニ濱松アリ市街繁盛ニシテ静岡縣廳アリ清水港ヲ距ル三里道路平坦運輸頗便ナリ甲府ハ甲斐ノ中央ニアリ山梨縣廳ノアル處ナリ下田ハ伊豆ノ南端ニアル港津ニシテ風帆船ノ多ク碇泊スル所ナリ熱海ハ伊豆ノ東北ニアリ有名ノ溫泉場ナリ相模ニ小田原アリ箱根山ノ東麓ニシテ山中著名ノ溫泉七箇アリ箱根七湯ト云フ



相摸ニ鎌倉ノ舊都横須賀ノ名港アリ、東京ハ古所謂武藏野ノ東南隅ニ建設セシ大都會ニシテ東京灣ニ臨ミ、隅田川ニ跨リ、中川、江戸川、溝渠相通シ、市街家屋共ニ壯麗ナリ、東京府廳アリ、殊ニ皇居存在シ、地ニシテ全國ヲ統べ治



東京市街

ムル政府、此處ニ在リ、近時又上野、下野ニ通ズル鐵道ヲ布ケリ、横濱又武藏ニアリ、本牧岬、其東ニ突キ出テ港内、諸國ノ船舶常ニ多シ、市街美ニシテ、神奈川縣廳アリ、又貿易盛ナルハ、全國第一タリ、此地、東京ヲ距ル七里餘、鐵道ヲ其間ニ設ケ、瀛車ノ往復間斷ナシ、安房ニ、北條及館山アリ、上總ニ、木更津アリ、下總ノ都會ハ、鉦子、千葉、佐倉等ニシテ、鉦子ハ利



根川ノ河口ニアリ、千葉ニハ千葉縣廳アリ、  
常陸ノ水戸ハ、那珂川ノ南岸ニアル、繁華ノ都會  
ニシテ、茨城縣廳アリ、

第六課 氣候及產物

全道ノ地勢北ニ山ヲ負ヒ、南ニ海ヲ受クルヲ以  
テ、氣候大概溫和ナリ、南方ニアル、小笠原島等ノ  
如キハ、氣候炎熱ナリ、  
產物ハ、水陸ノ產極メテ多ク、製造品モ亦盛ニシ  
テ、伊勢ノ萬古燒、形紙、津鯨子、尾張ノ瀨戸燒、七寶  
燒、鳴海絞、名古屋扇、大根、駿河ノ駿府細工、半紙、安

部茶、甲斐ノ郡内織、改機、水晶、葡萄、伊豆ノ雁皮紙、  
八丈ノ八丈絹、相摸ノ榛物、貝細工、武藏ノ秩父及八  
王子ノ織物、淺草海苔、安房ノ房州沙、上總ノ紅花、  
下總ノ結城木綿、細織、鉦子縮、野田醬油、流山味醂、  
行徳鹽、佐倉炭、常陸ノ紙類、水戸ノ銅器等ナリ、其  
他、沿海漁鹽ノ利ニ富ム、又東京ハ、我邦通商ノ中  
心ナルヲ以テ、商業甚盛ニシテ、内外ノ產物相集  
リ、且、鼈甲、塗物、錦繪等ノ精巧ナル、製造品ヲ出ス、



明治十九年五月三日 出版 免許  
同 年 同 月 出 版  
卷一二明治二十年一月二十一日訂正再板御届  
卷三四明治二十年五月三十日訂正再板御届

新撰地誌自一至四

明治十九年五月三日 出版 免許  
同 年 同 月 出 版  
卷一二明治二十年一月二十一日訂正再板御届  
卷三四明治二十年五月三十日訂正再板御届

編纂人 岡村增太郎  
東京府平民

出版人 小林義則  
東京日本橋區本町四丁目十六番地

發兌 文學社  
東京日本橋區本町四丁目十六番地



文  
學  
社  
東京日本橋區本町四丁目十六番地



